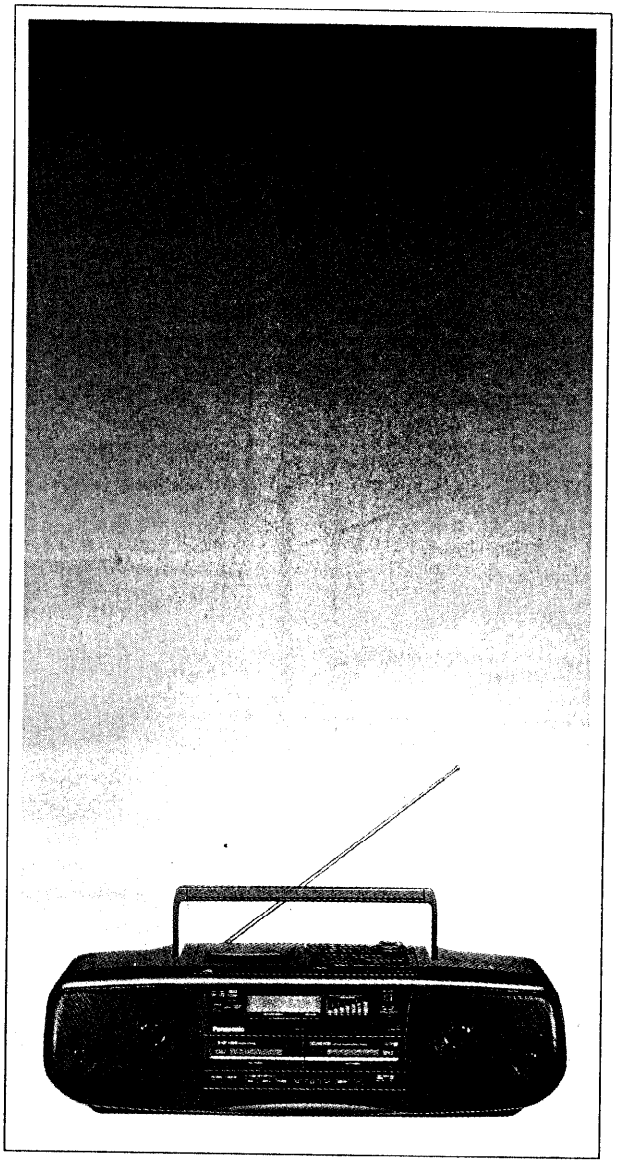
Panasonic

ポータブルステレオCDシステム

品番 RX-DT8

取扱説明書

保証書別添



COMPACT disc DIGITAL AUDIO

このたびは、パナソニック「ポータブルステレオCDシステム RX-DT8」をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。

上手に使って上手に節電

■取扱説明書と保証書は、よくお読みのうえ、大切に保管してください。

■保証書は必ず「販売店名・購入日」等の記入を確かめて販売店からお受取りください。

もくじ

- 操作のまえに…… 2
- 各部の名称と働き…… 4

演奏(再生)のしかた

- CDを聞く……12
- ラジオ/テレビを聞く……20
- テープを聞く……26

録音のしかた

- 録音をするまえに……30
- CDを録音する……32
- ラジオ/テレビを録音する……40
- テープ編集する……42

タイマーの使いかた

- タイマー時刻をセットする……44
- タイマー演奏/録音をする……46
- おやすみになりながら聞く(スリープ操作)48

参考にしてください

- リモコンで操作する……51
- マイクミキシング……52
- 外部機器との接続……54

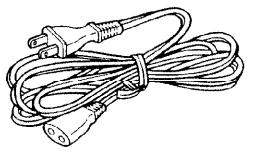
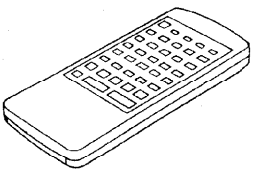
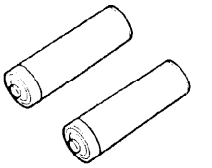
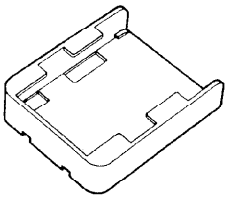
知っておいていただきたいこと

- お手入れ……55
- コンパクトディスクについて……56
- テープについて……57
- 電源の注意……58
- 著作権について……59
- 安全使用のために……59
- アフターサービス……60
- 故障!?と思うまえに……61
- 定格……62

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

操作のまえに

付属品を確かめる

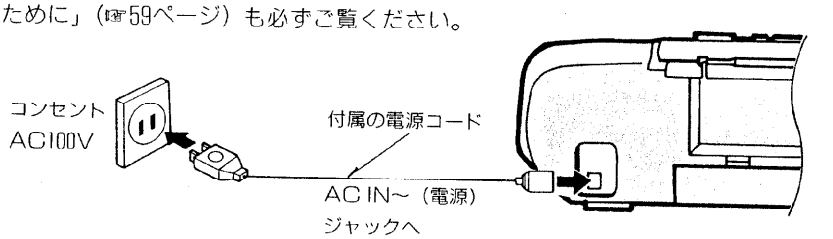
●電源コード……1 (☞下図)	●リモコン……1 (☞51ページ)	●リモコン用乾電池……2 (☞51ページ)	●リモコンホルダ……1 (☞11ページ)
			

電源について

「電源の注意」(☞58ページ)と、「安全使用のために」(☞59ページ)も必ずご覧ください。

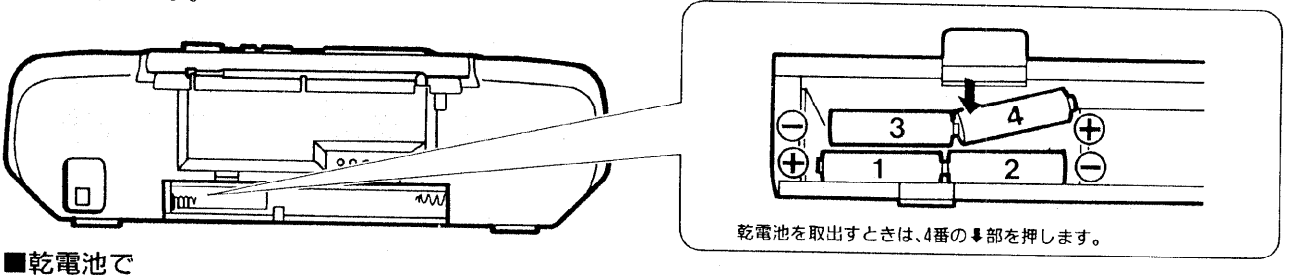
■家庭用の電源で

付属の電源コードを接続します。



■時計/マイコン用乾電池のセット

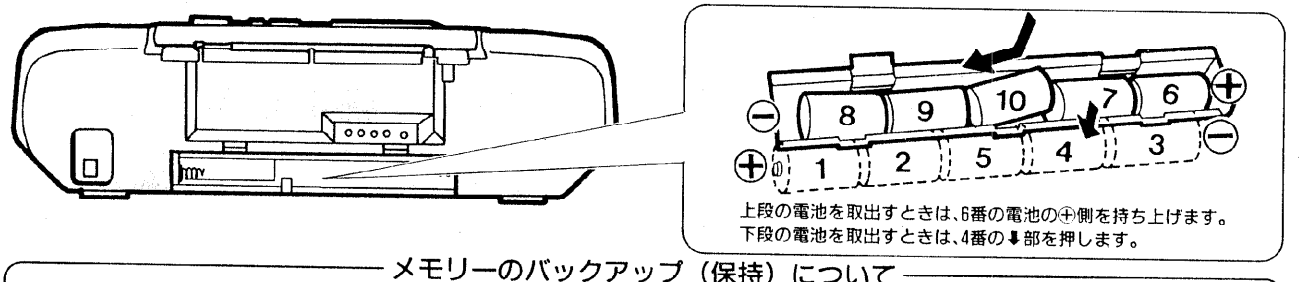
別売りの単三形乾電池(R6P/LR6)を使うと、時計の動作や、放送局やCDの演奏順など、プリセットしたメモリーの内容を保持します。



■乾電池で

別売りの単一形乾電池(R20P/LR20)10個を、極性を間違えないよう、番号順に入れます。

(下図の5番と10番の乾電池は⊖側に押し込むようにして入れます。)



メモリーのバックアップ(保持)について

本機のチューナ、CD、時計/タイマーのプログラムメモリーは、AC使用時はACで、乾電池(別売り単一形乾電池)使用時は乾電池で保持しています。

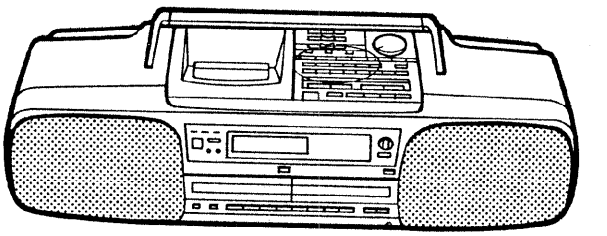
時計/マイコン用乾電池を使用していない場合、停電(AC使用時)またはつぎの操作を行なったときメモリーが消えます。このときは、もう一度メモリーしてください。

- ACで使用中、電源コードをACコンセントから抜いたとき
- 乾電池(単一形乾電池)で使用中、ACコンセントに差込まれていない電源コードを本機のAC IN(イン)ジャックに差込んだとき

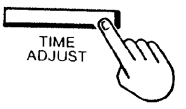
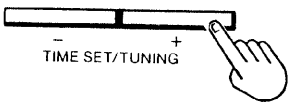
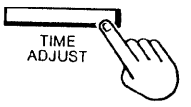
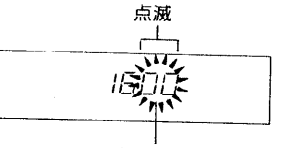
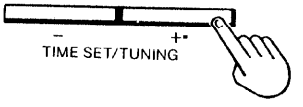
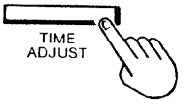
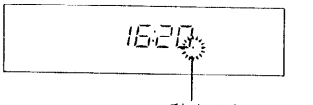
すでにメモリーされたプログラムを誤って消さないため、時計/マイコン用乾電池(別売り単三形4個)の使用をおすすめします。

現在時刻を合わせる

時刻調整は誤操作を避けるため、電源を切った状態で行なうことをおすすめします。
本機の時計は24時間表示です。



例：午後4時20分(16：20)に合わせる

操作	ディスプレイの表示
1  押す	**TIME ADJUST（タイム アジャスト）キーを押します。** （“時間”ディスプレイが点滅します。）	点滅 “時間”ディスプレイ
2  押す	**時刻調整キー（「＋」または「－」）を押して時刻を合せます。**	
3  押す	**TIME ADJUST（タイム アジャスト）キーを押します。** （時間（「16」）の点滅が止まり、“分”ディスプレイが点滅します。）	点滅  “分”ディスプレイ
4  押す	**時刻調整キー（「＋」または「－」）で分を合わせます。**	
5  押す	**TIME ADJUST（タイム アジャスト）キーを押します。** （秒表示が点滅して、時計動作が始まります。）	 秒表示（点滅）

- 時刻調整キーを押続けると、時間（分）表示は連続的に進みます。
- 分表示が「59」から「00」に繰上がっても、時間表示は繰上がりません。

■秒単位で正しく時刻調整するには

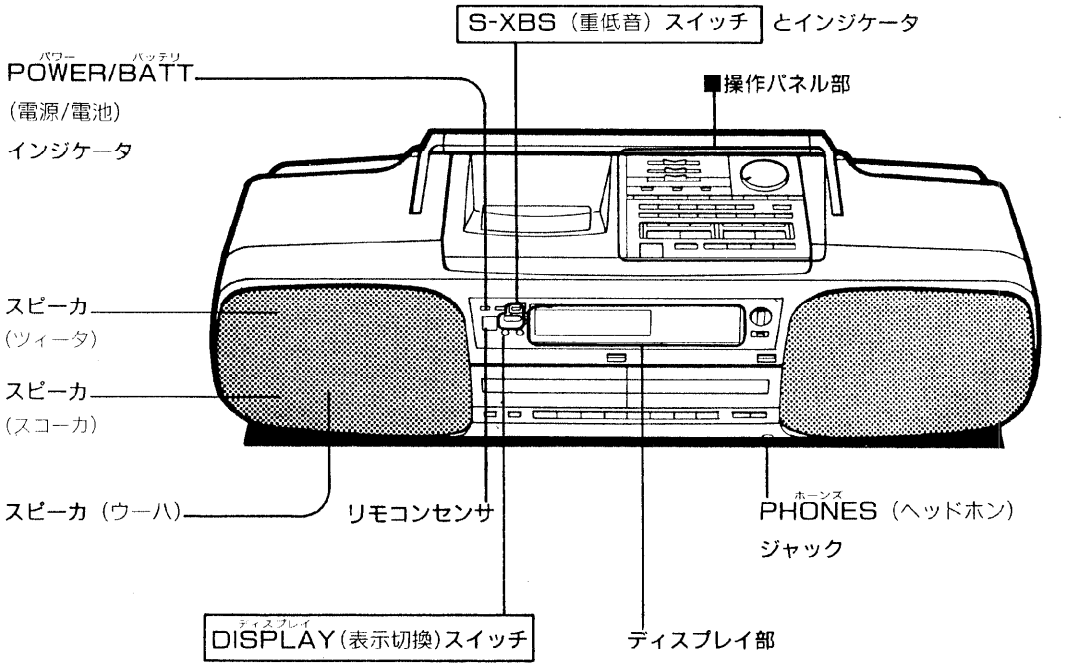
電話の時報サービス（117番）を利用すると便利です。
あらかじめ上記の手順1～4をすませておき、時報とともにTIME（タイム） ADJUST（アジャスト）キーを押します。

- TIME（タイム） ADJUST（アジャスト）キーを押し直しただけでは0秒からの動作にはなりません。

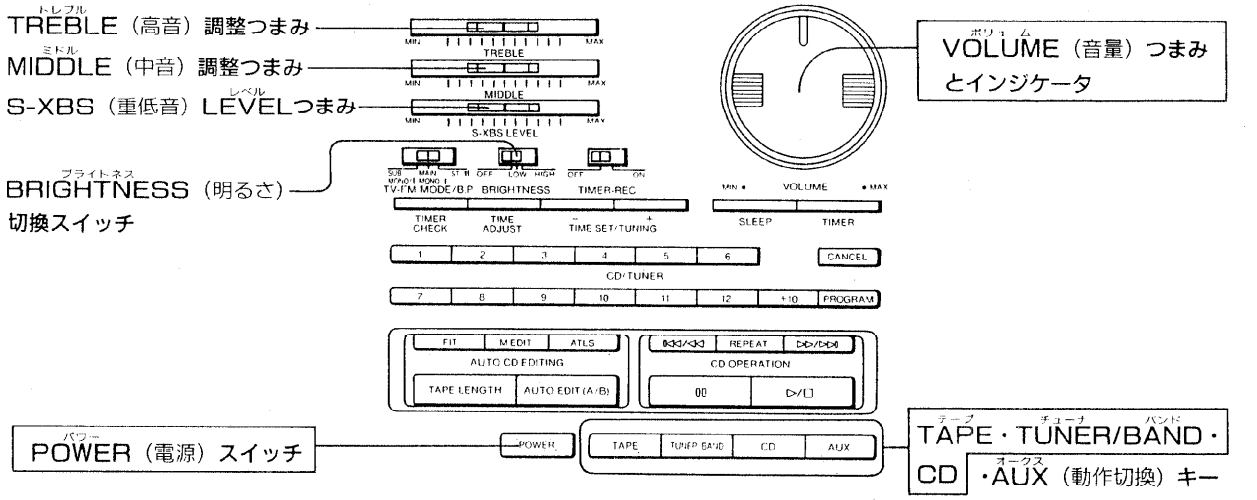
各部の名称と働き

総合部

■についてはリモコンでも操作できます。



■操作パネル部



■POWER（電源）スイッチ

電源を入れるときは、直接動作切換キーで入りますが、電源を切るときは、必ずPOWER（電源）スイッチで切ってください。

■TAPE・TUNER/BAND・CD・AUX（動作切換）キー

聞きたいソース（テープ・ラジオ・CD・外部機器）を選びます。
キーを押すと電源が入ります。

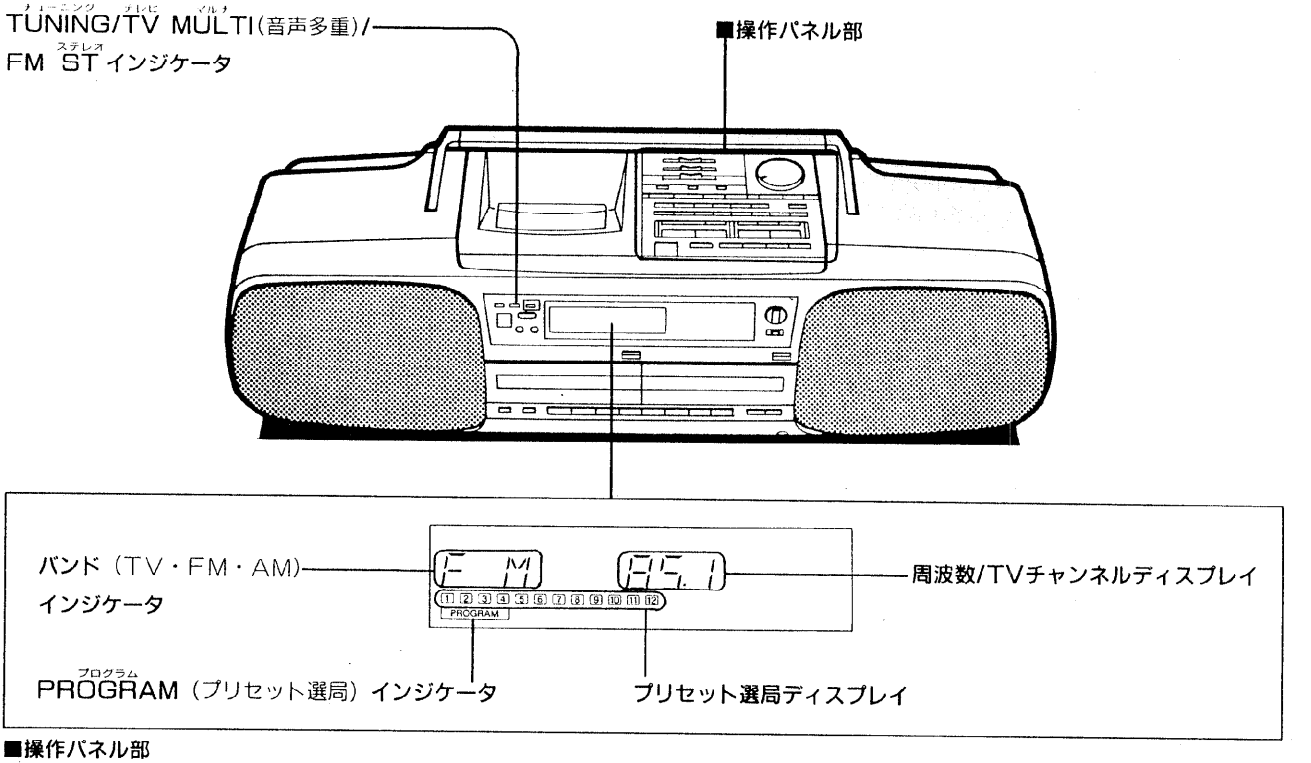
- TUNER/BANDキーはバンド（AM・FM・TV）切換スイッチを兼用しています。

■BRIGHTNESS（明るさ）切換スイッチ

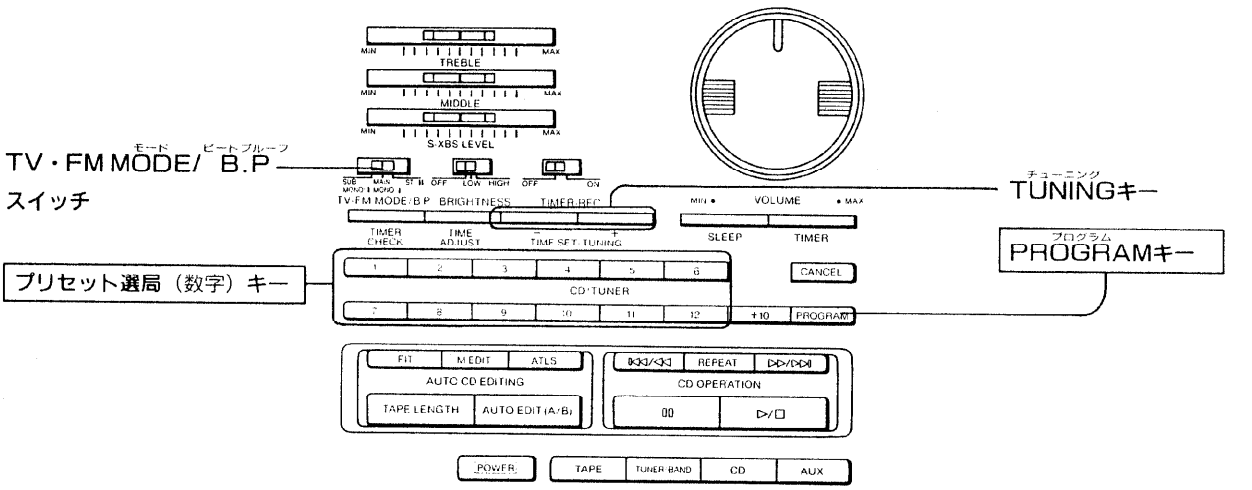
ディスプレイ部の明るさを切換えることができます。
乾電池でお使いのときは働きません。
（ディスプレイ部の照明も点灯しません。）

チューナ部

■ についてはリモコンで操作できます。



■操作パネル部



■PROGRAMキー

放送局をプリセット選局（数字）キーに記憶するときに押します。(CDのPROGRAMキーも兼用しています。)

■プリセット選局(数字)キー

お好みの放送局を各キーに記憶させ、直接呼び出すことができます。(CDのダイレクト選曲キーも兼用しています。)

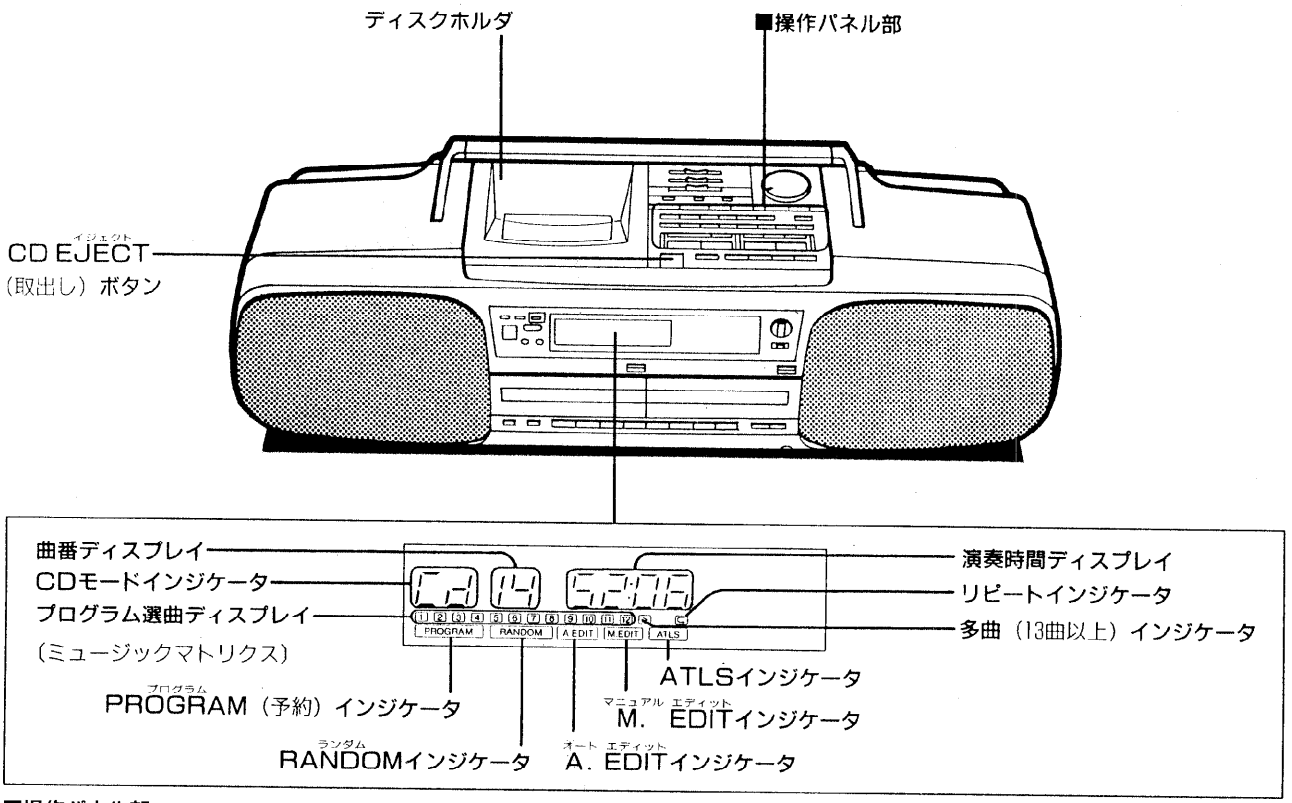
■TUNING（選局）キー

放送局を選局するとき押します。「↑」キーを押すと周波数が上がり、「−」キーを押すと周波数が下がります。
(時刻/スリープ時間調整キーを兼用しています。)

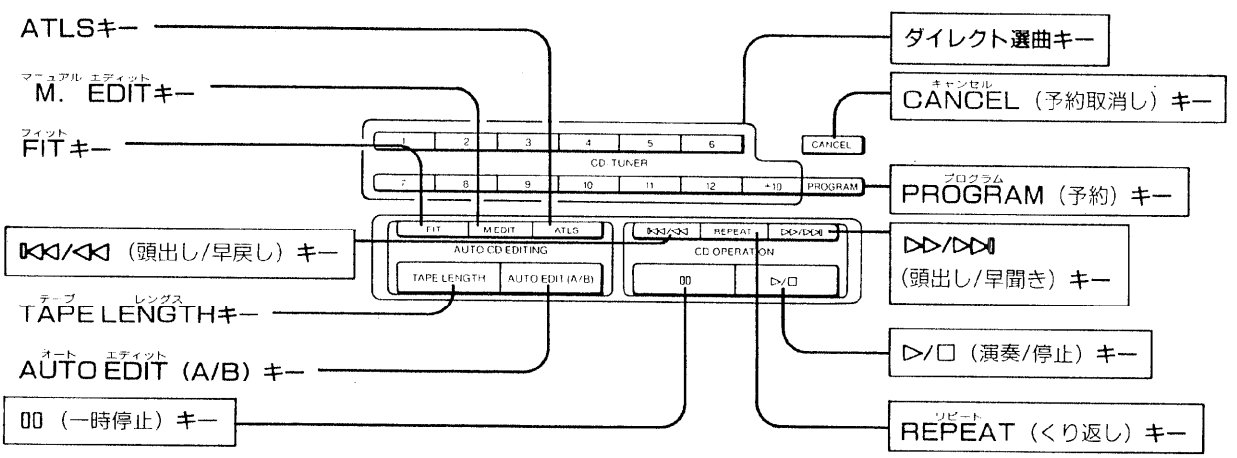
各部の名称と働き

CD部

■についてはリモコンで操作できます。



■操作パネル部



■ダイレクト選曲キー
演奏したい曲番を指定します。

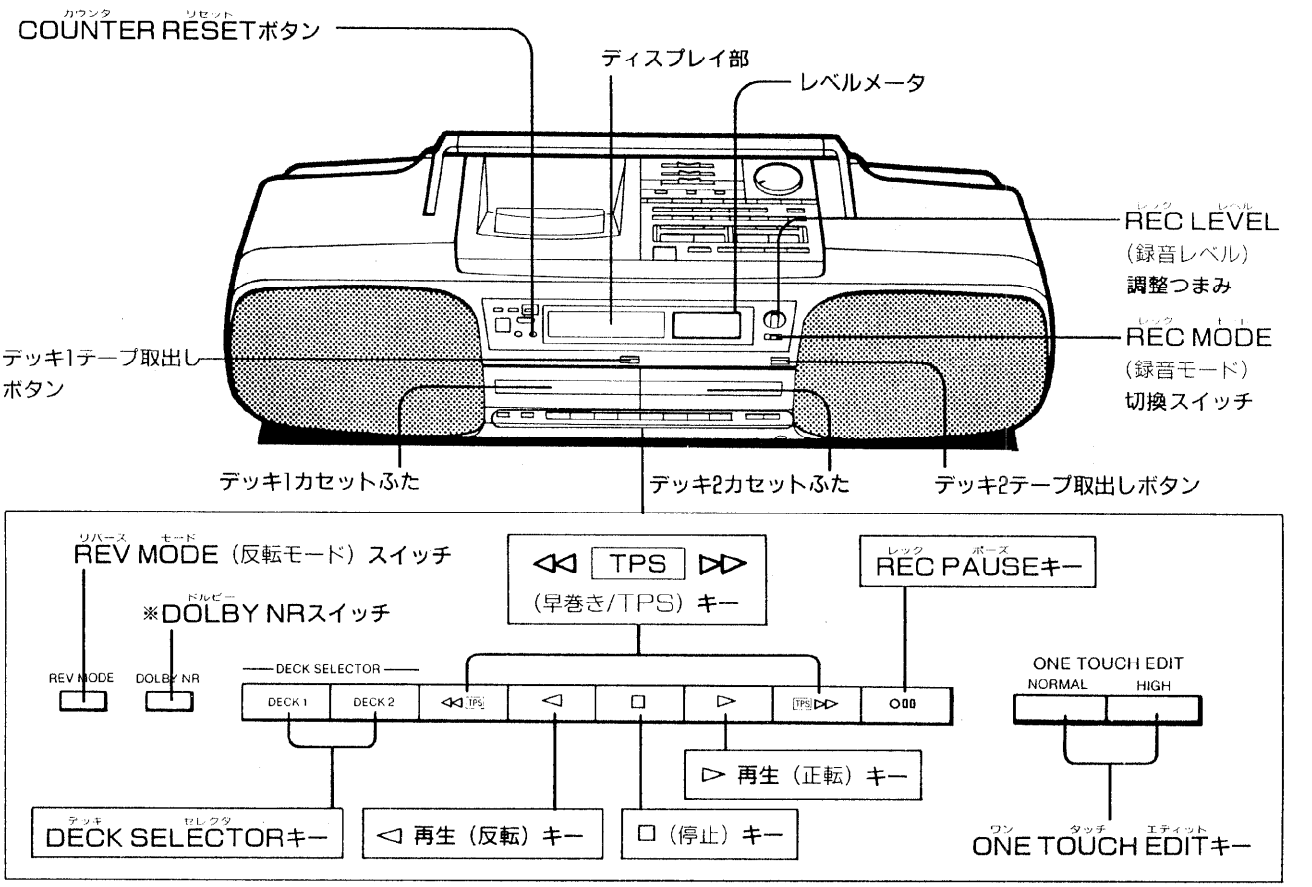
■ATLSキー
CDを録音するとき、録音レベルを自動的に設定して録音します。
（ATLS：Auto Tape Level Setting：自動テープレベル設定の略称です。）

■PROGRAM（予約）キー
お好みの順序で演奏予約するとき押します。

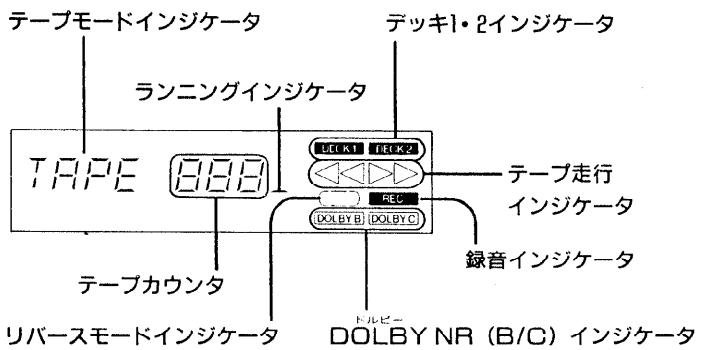
■CANCEL（予約取消し）キー
予約演奏する曲を全て、または最後の曲を順次取消すことができます。
（チューナのプリセット選局時には働きません）

デッキ部

■についてはリモコンでも操作できます。



■ディスプレイ部



※ドルビーノイズリダクションはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、DOLBY及びダブルD記号 DD はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

■DECK SELECTORキー
カセットがデッキ1、2の両方に入っているときは、使いたい側のDECKキーを押します。

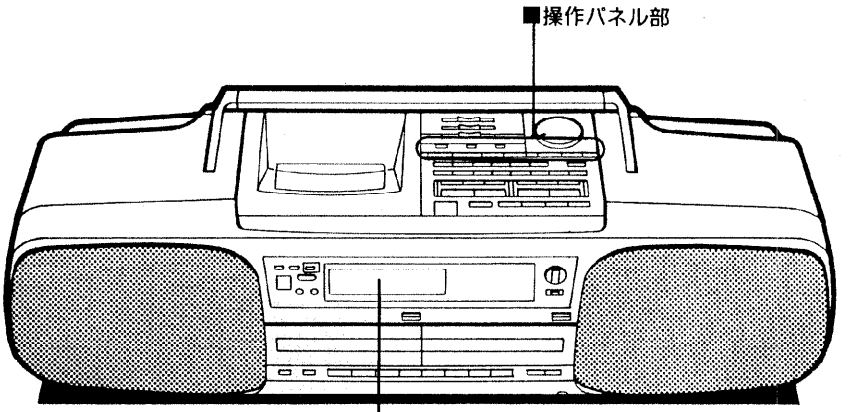
■ONE TOUCH EDITキー
デッキ1からデッキ2にテープ編集ができます。(☞42ページ)

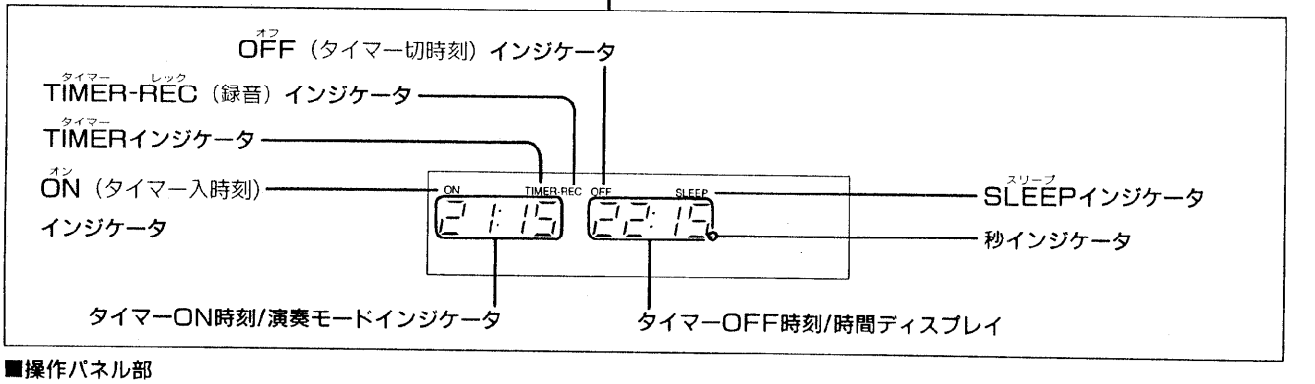
■DOLBY NRスイッチ
テープ特有のサーという雑音 (ヒスノイズ) を減らすことができます。(☞26ページ)

各部の名称と働き

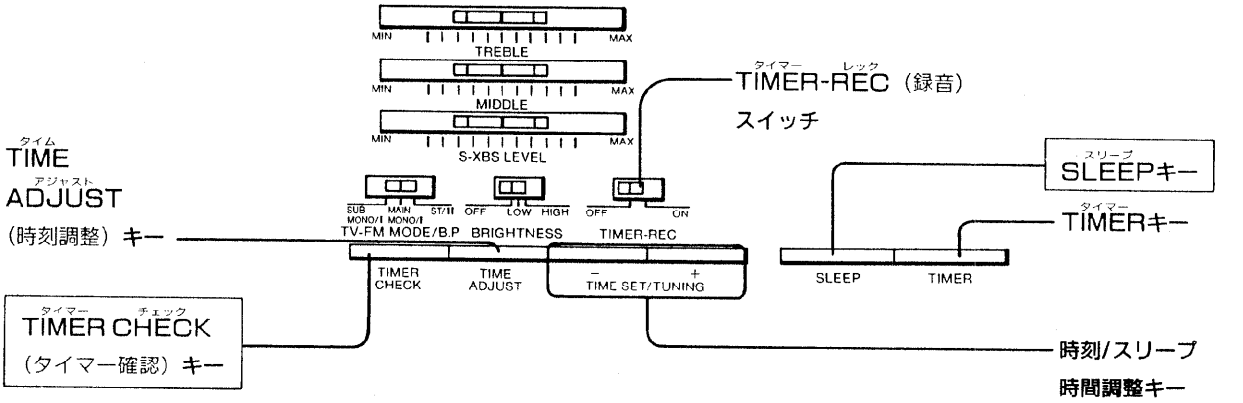
タイマー部

■ についてはリモコンでも操作できます。





■操作パネル部



■TIMER CHECK（タイマー確認）キー
タイマーの入、切時刻の設定や、設定した時刻と演奏モードを確認するとき押します。

■TIME ADJUST（時刻調整）キー
時刻を設定するとき押します。

■TIMER-RECキー
タイマー録音をするときにONにします。
通常はOFFにします。

リモコン部

電源

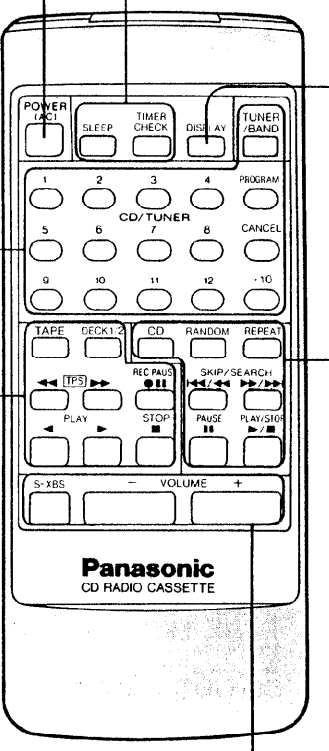
POWER（電源）スイッチ

CD/チューナ共通部

TUNER/BAND（動作/バンド切換）ボタン
数字ボタン
・CD時：ダイレクト選曲(1～12、+10)
・チューナ時：プリセット選局(1～12)
PROGRAM(予約)ボタン
CANCEL(予約取消し)ボタン
(CDのみ)

テープ

TAPE（動作切換）ボタン
DECK1/2切換ボタン
◀◀ TPS（早巻/TPS）ボタン
TPS ▶▶（早巻/TPS）ボタン
◀（反転再生）ボタン
▶（正転再生）ボタン
●II（録音ポーズ）ボタン
■（停止）ボタン



タイマー

SLEEPボタン
TIMER CHECK
(タイマー確認)ボタン

表示切換

DISPLAY（表示切換）ボタン

CD

CD（動作切換）ボタン
RANDOM（順不同演奏）ボタン
REPEAT（くり返し演奏）ボタン
⏮/◀◀(頭出し/早戻し）ボタン
▶▶/⏭(頭出し/早聞き）ボタン
II（一時停止）ボタン
▶/■（演奏/停止）ボタン

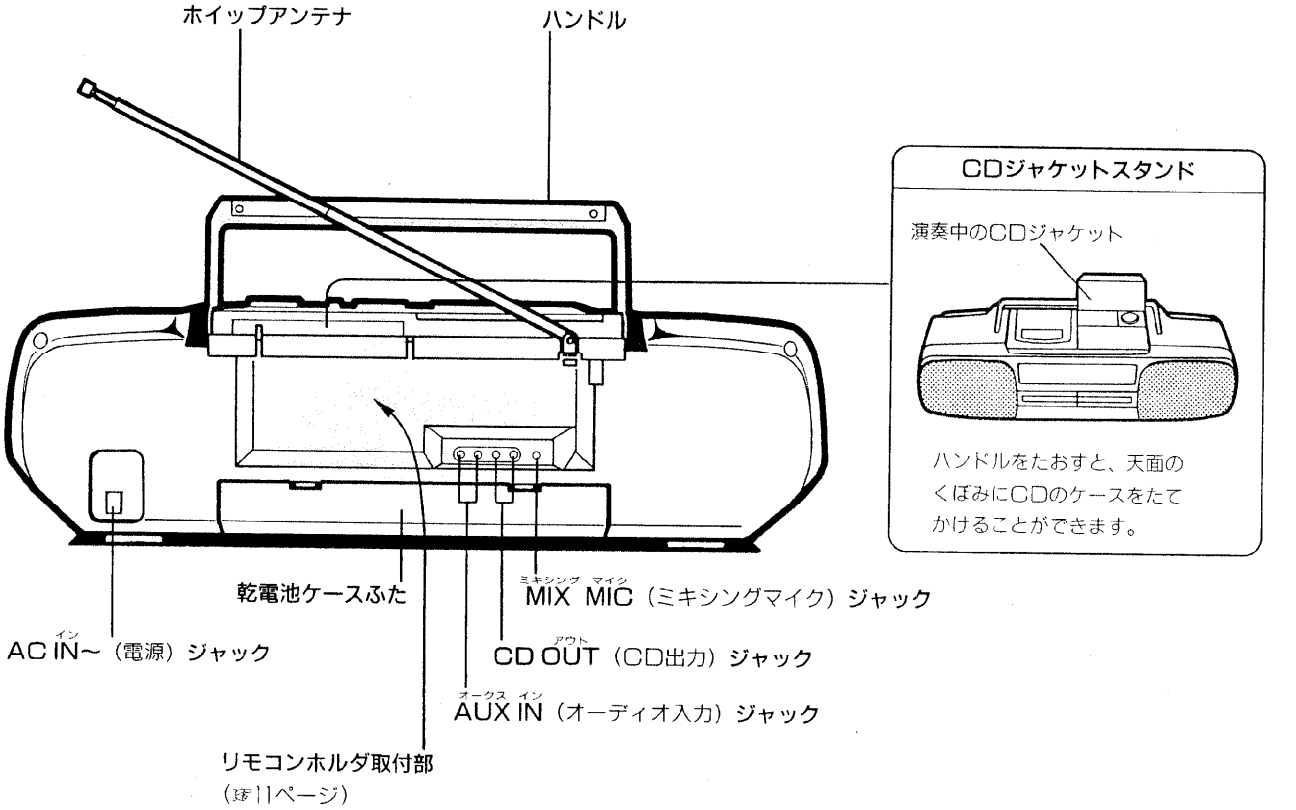
音量/音質（重低音）

VOLUME（音量調整）ボタン
S-XBS(入/切)スイッチ

●乾電池でご使用中、電源の「入」はリモコンではできません。
(乾電池の消耗を防ぐためです。)
本体のPOWERスイッチで行なってください。

各部の名称と働き

後面部



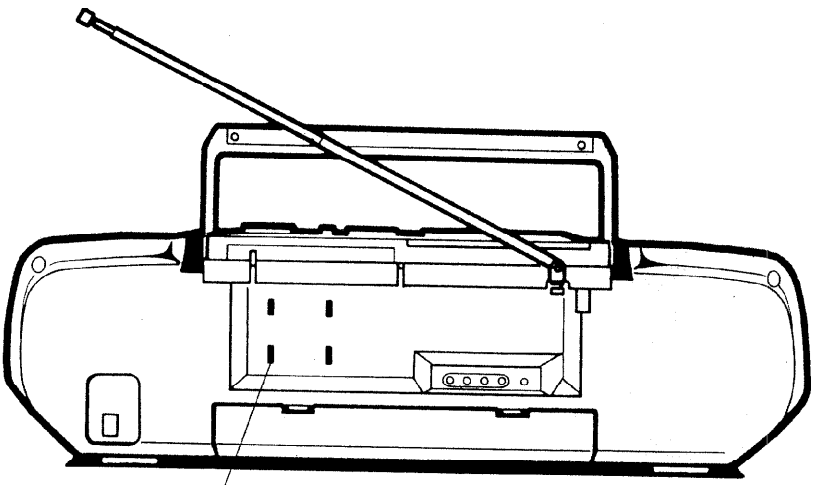
■MIX MIC（ミキシングマイク）ジャック
マイク（別売り）を接続すると、マイクミキシング再生/録音ができます。

■CD OUT（CD出力）ジャック
CDを他のステレオセットを使って聞くときに使用します。

■AUX IN（オーディオ入力）ジャック
他のステレオセットの音を、本機で演奏/録音するときに使用します。

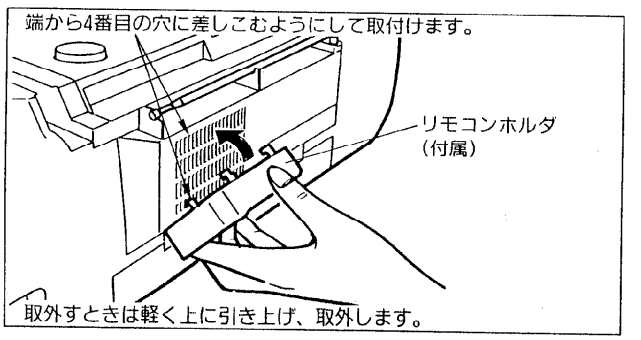
リモコンホルダの使いかた

本機後面のリモコンホルダ取付用穴に、付属のリモコンホルダを取付けます。
(本機をリモコンとも持ち運ぶときに便利です。)

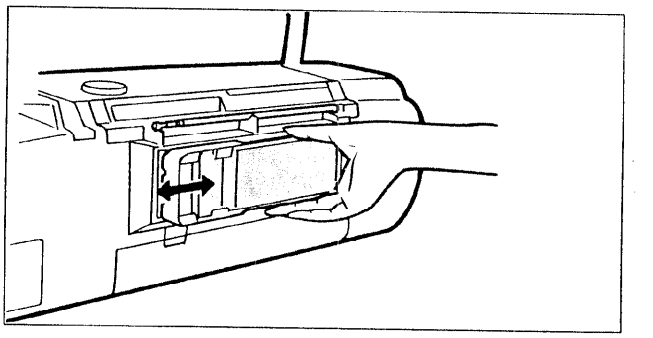


リモコンホルダ取付部
(4ヵ所)

■リモコンホルダの取付けかた



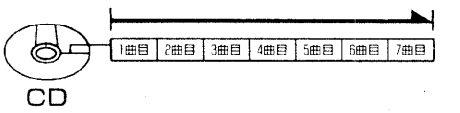
■リモコンをリモコンホルダにセットするには

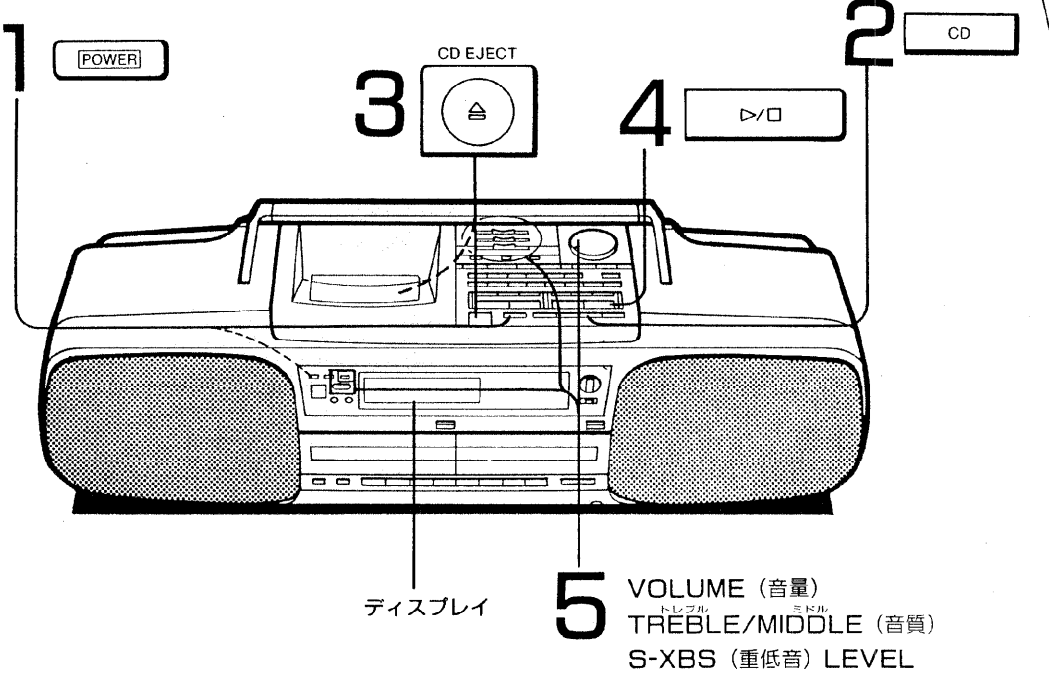


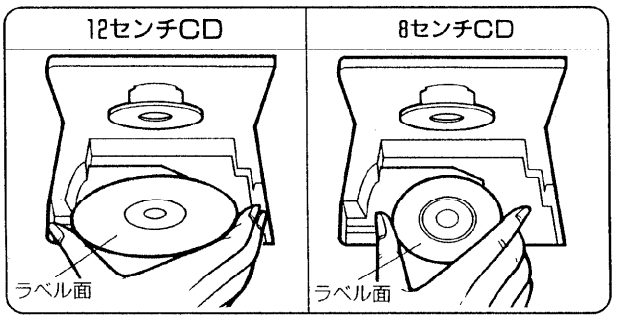
CDを聞く

1曲目から順に聞く(ノーマルプレイ)

番号順に操作してください。







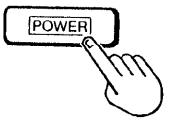
ご注意

- 演奏中、ディスクを取出すときは必ず▷/□（演奏/停止）キーを押してディスクの回転を止めてからCD EJECT(イジェクト)Tボタンを押してください。
- CDやラジオやテレビの近くで演奏すると、ラジオやテレビに雑音などが入ることがあります。このときは本機をできるだけ離してお聞きください。

CDを聞く

操　　作	ディスプレイの表示

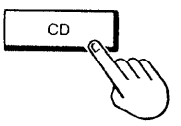
1



電源を入れます。

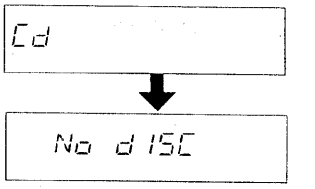
- POWER(パワー)/BATT(バッテリー)インジケータが点灯します。
  使用後は必ずこのスイッチを押して、電源を切ってください。

2

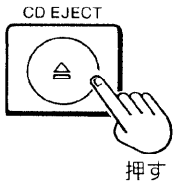


「CD」にします。

(CDインジケータが点灯し、ディスクがないときは"No disc"と表示されます。)



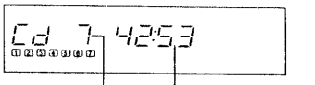
3



ディスクを入れ、ディスクホルダを閉じます。

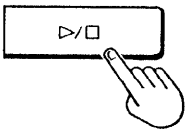
ディスクが回転し、ディスプレイが総曲数と総演奏時間を表示します。

- 7曲入り、42分53秒のディスクの場合



総曲数　総演奏時間

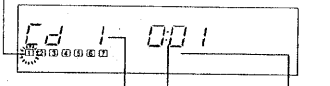
4



▷/□（演奏/停止）キーを押します。

1曲目から順に演奏が始まります。

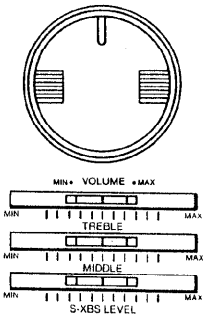
演奏中(点滅) → 演奏後(消える)



演奏中の曲番　曲ごとの演奏経過時間

(13曲目以降の曲では多曲インジケータ(▷)が点滅します。)

5



音量、音質を調整します。

音質調整をするには

高音：TREBLE(トレブル)つまみで調整します。

中音：MIDDLEつまみで調整します。

重低音：S-XBSスイッチを押し、

(S-XBSインジケータが点灯)

S-XBS LEVEL(レベル)つまみで調整します。

■演奏を止めるには

▷/□キーをもう一度押します。(全曲の演奏が終わると自動停止します。)

■演奏を一時止めるには

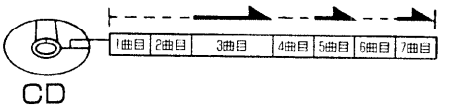
□□(一時停止)キーを押します。

演奏時間ディスプレイが点滅。

(もう一度押すと再び演奏が始まります。)

お好みの曲を選んで聞くには(プログラムプレイ)

好みの曲を好みの曲順で演奏することができます。
最高36曲まで予約できます。



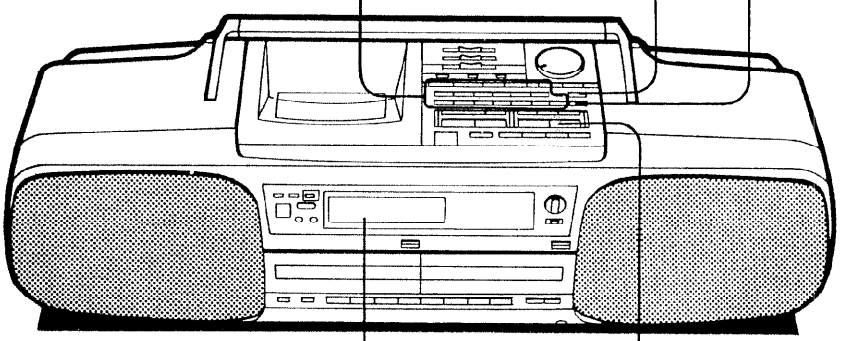
1 12ページの1～3の操作をします。

POWER
↓
CD
↓
CD EJECT

2 PROGRAM

3 CD/TUNER (チューナ)

CANCEL (キャンセル) (予約取消し)



ディスプレイ

4 ▷/□

ご注意

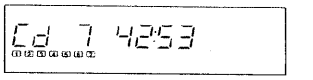
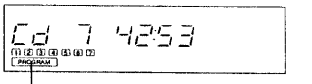
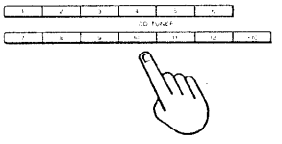
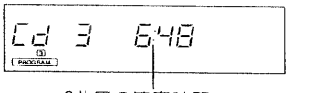
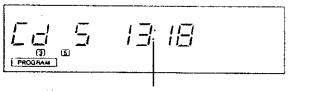
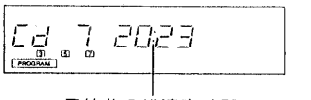
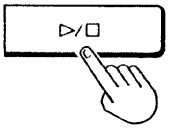
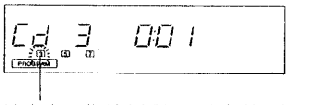
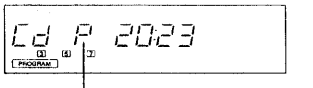
- ディスクに無い曲番を指定すると、トラックディスプレイに“E”(エラー)が表示されます。
- 予約曲が36曲以上になるとトラックディスプレイに“F”が表示され、それ以上予約できません。
- 予約曲の演奏時間の合計が120分0秒を越えると時間表示は“- - : - -”となります。

■13曲以上録音されたCDのときは

ミュージックマトリックスには、13曲以降の曲を予約すると全て“▷”が表示されます。
(操作は12曲以内のCDのときと全く同じです。)

■予約内容を確認するには

停止時に、[∧SKIP/CH] または [SKIP/CH∨] を使うと、押すごとに予約した曲番と演奏順序をマルチディスプレイ上で確認できます。

操　　作	ディスプレイの表示
1 POWER ↓ CD ↓ CD EJECT **ノーマルプレイ**（☞12ページ）**の1〜3の操作をします。**	●7曲入り、42分53秒のディスクの場合 
2 押す **PROGRAM（プログラム）キーを押します。** （PROGRAM（プログラム）インジケータが点灯します。）	 PROGRAM（プログラム）インジケータ
3  押す **演奏したい曲番の数字キーを押します。** ●ディスプレイの表示は： （3曲目、5曲目、7曲目の順で予約したとき） 好みの曲番を押すと最初に演奏順を表示し、約2秒後に合計の演奏時間を表示します。 演奏順　合計演奏時間 3 を押す……3- -01 ➡ 3 6:48 5 を押す……5- -02 ➡ 5 13:18 7 を押す……7- -03 ➡ 7 20:23	 3曲目の演奏時間  3曲目と5曲目の合計演奏時間  予約曲の総演奏時間
4  押す **▷/□（演奏/停止）キーを押します。** （予約した順序で演奏が始まります。）	 演奏中の曲が点滅し、演奏が終わった順に消えます
■演奏を止めるときは： ▷/□ を再度押します。 （予約曲の演奏が終わると自動停止します。）	 プログラムを保持して停止しています。

■プログラムメモリー機能

予約した内容はCANCEL（キャンセル）キーを使って予約し直すまで覚えていますので予約し直す必要はありません。電源を切ってもディスクを取出さない限り覚えています。（タイマー演奏時に便利です。）

（PROGRAM（プログラム）インジケータが点灯しています。）

■13曲目以降を予約するには

+10 を押した後、1 〜 12 を押します。

（たとえば16曲目：+10 → 6

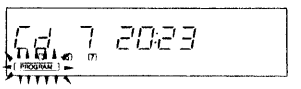
20曲目：+10 → 10

28曲目：+10 → +10 → 8）

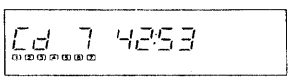
予約した曲を取消す

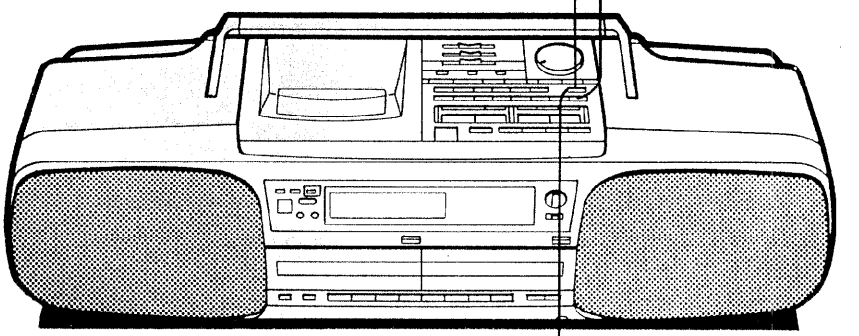
● 予約した曲を全て取消す

1 停止中（演奏前）にPROGRAM（プログラム）キーを押します。
（PROGRAM（プログラム）インジケータが約5秒間点滅します。）



2 インジケータが点滅中にCANCEL（キャンセル）キーを押します。
（PROGRAM（プログラム）インジケータが消え、予約が取消されます。）

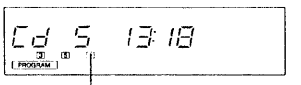




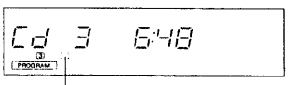
● 予約した最後の曲のみを取消す

停止中（演奏前）にCANCEL（キャンセル）キーを押す。
（押すごとに順次最後の曲の予約を取消すことができます。）

例：3 → 5 → 7 と予約したときは、CANCEL（キャンセル）キーを押すごとに 7 → 5 → 3 の順に取消されます。



最後に予約した7が
消える。

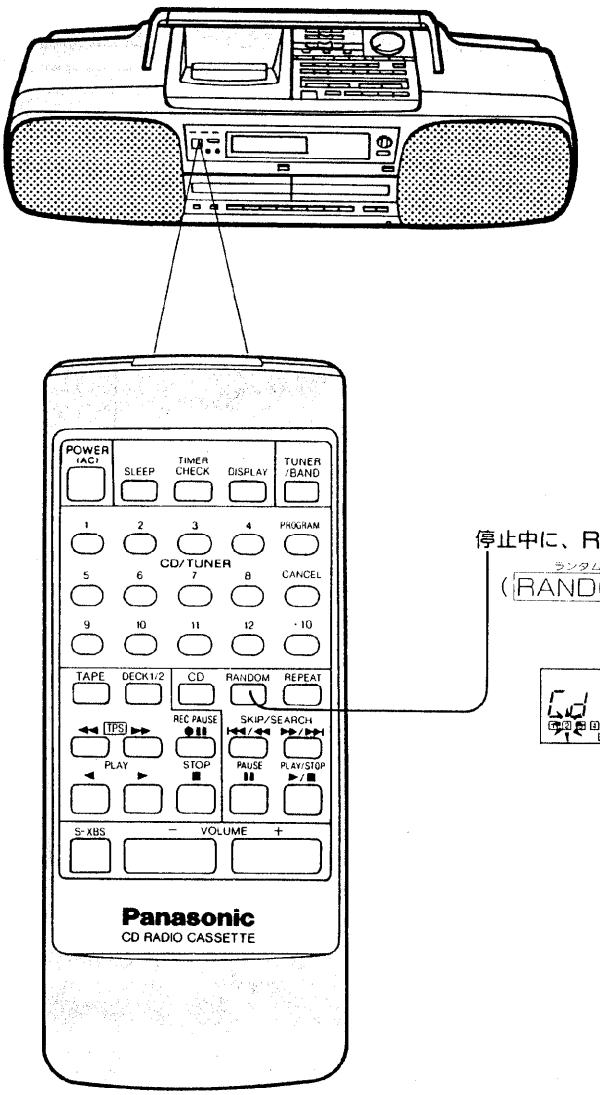


もう1度押すと5が
消える。

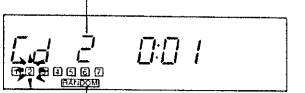
● 予約曲の取消しは、途中の曲（5曲予約したうちの3曲目など）を取消すことはできません。

曲を順不同に聞く(ランダムプレイ)

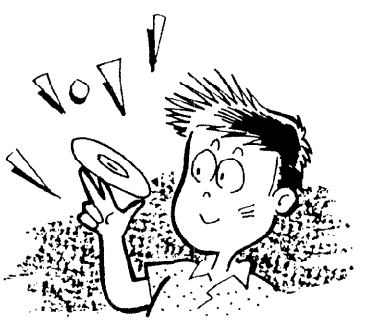
内蔵のマイコンが、ディスクの曲順にかかわりなく、そのつど曲を選んで演奏します。
(ランダムとは、手当りしだいに、無作為に、という意味です。)
●ランダムプレイはリモコンで操作します。本体に操作つまみはありません。



停止中に、RANDOM(ランダム)ボタンを押す。
(RANDOM(ランダム)インジケータが点灯し、演奏が始まります。)
演奏する曲と順序はそのつど変わります。



RANDOM(ランダム)インジケータ



■全曲の演奏が終わると
自動停止します。

■ランダムプレイを取消すには
RANDOM(ランダム)ボタンをもう一度押します。
(RANDOM インジケータが消えます。)
●▷/□(演奏/停止)キーを押してランダムプレイを取消すこともできます。

ご注意

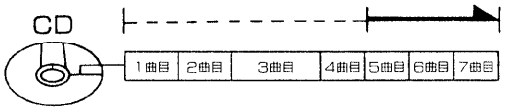
プログラムプレイ(☞14ページ)と組み合わせて演奏することはできません。

CDを聞く

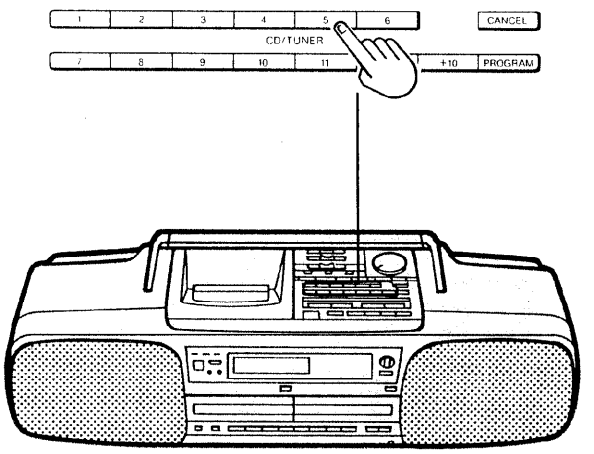
好みの曲から聞く(ダイレクトプレイ)

指定した曲から演奏を始めます。

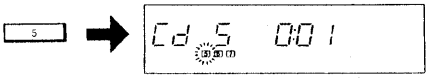
(5曲目を指定したとき)



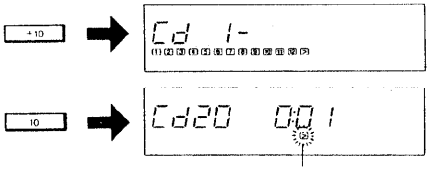
5曲目から聞くときは、ダイレクト選曲キーの [5] を押します。(13曲目以上は、[+10] と [1]～[12] キーを併用します。)



●5曲目を指定したとき



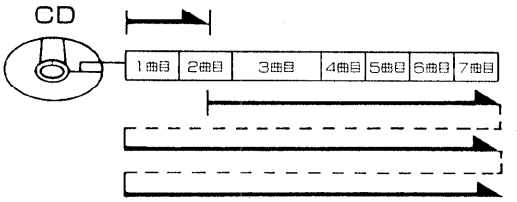
●20曲目を指定したとき (20曲以上あるCDのとき)



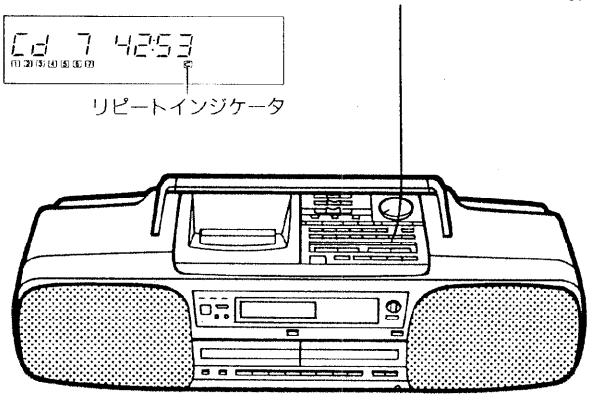
13曲目以降を演奏したときは、
▷ が点滅します。

演奏をくり返し聞く(リピートプレイ)

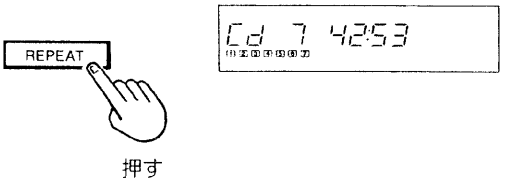
全曲をくり返し演奏します。
プログラムプレイ中は、予約した曲を予約順にくり返し演奏し、ランダムプレイ中はそのつど曲を選んで全曲をくり返し演奏します。



REPEAT(リピート)キーを押します。
(マルチディスプレイにリピートインジケータが点灯します。)



●リピートプレイを取消すには
REPEAT(リピート)キーをもう1度押します。
(リピートインジケータが消えます。)

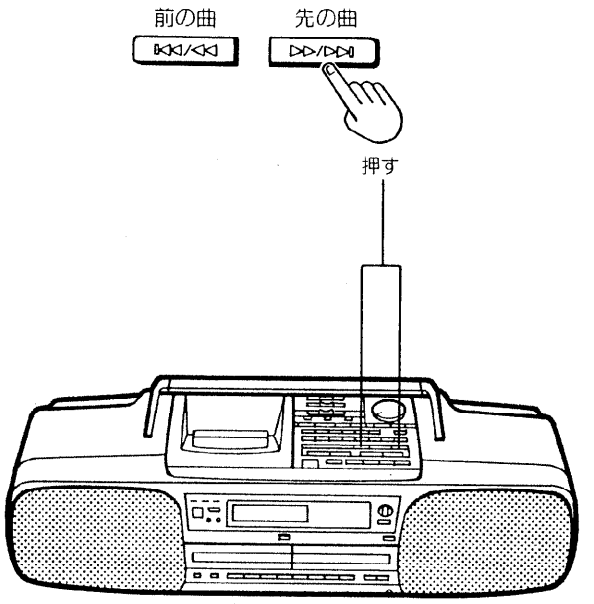


●プログラム予約中はダイレクトプレイはできません。(予約曲の追加になります。)このときはプログラムプレイを解除してから操作してください。(☞16ページ)

●一曲だけをくり返し演奏をするにはプログラムプレイ(☞14ページ)で曲を選んでからリピートプレイをします。

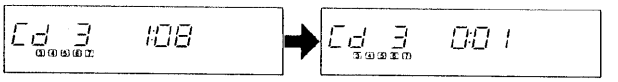
好みの曲の頭出しをする（スキッププレイ）

演奏中や一時停止中に演奏中の曲や前後の曲の頭出しができます。



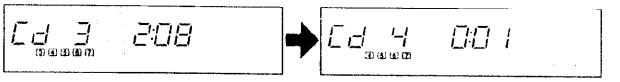
■演奏中の曲を最初から聞く

3曲目を演奏中に押すと、3曲目を最初から演奏します。



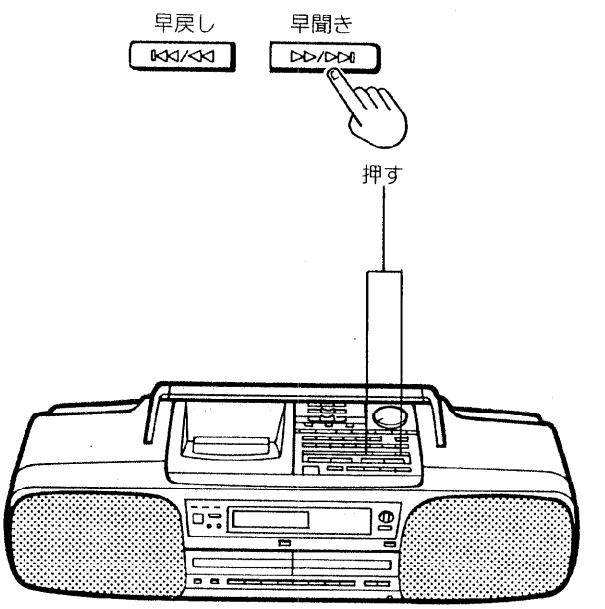
■演奏中の曲をとびこして次の曲を聞く

3曲目の演奏中に押すと、4曲目を最初から演奏します。



演奏中に聞きたいところをさがす（サーチプレイ）

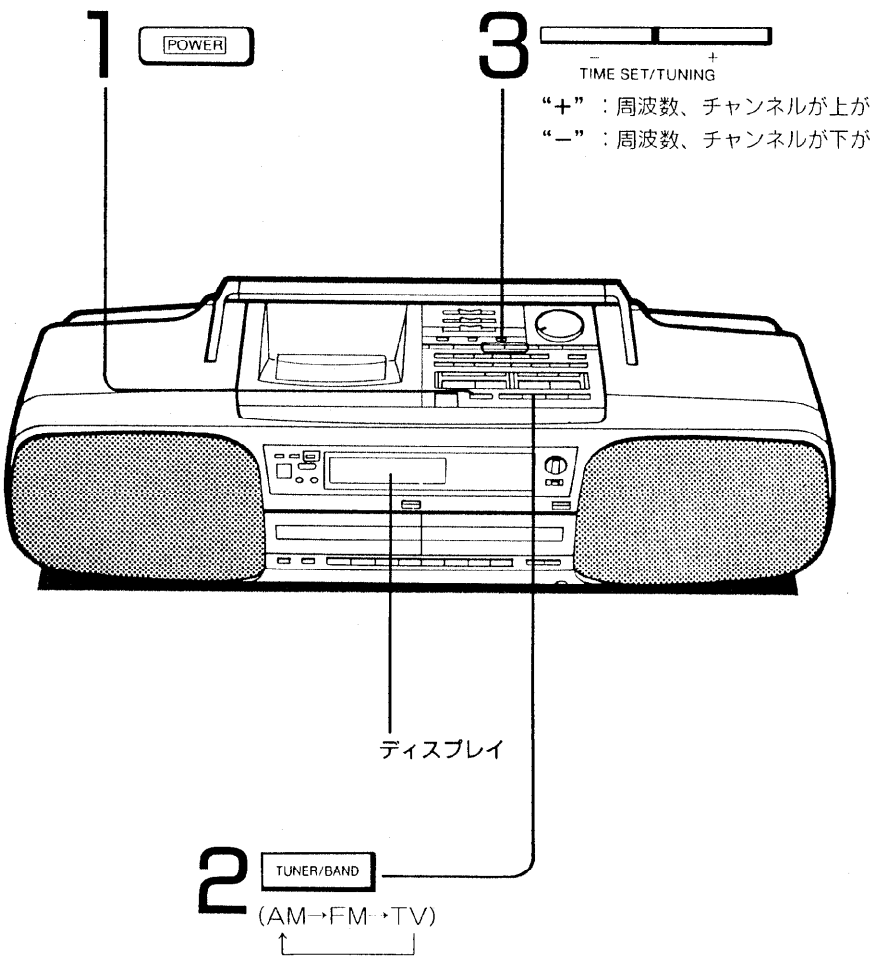
演奏中に ⏮/◁◁ 、または ▷▷/⏭ を押し続けると、演奏音を聞きながら（通常の約1/4の大きさ）早聞き（早戻し）ができます。聞きたいところにきたら指を離してください。



- **前後数曲先(前)の曲にスキップするには**
  ▷▷/⏭ キー（または ⏮/◁◁ キー）をくり返し押します。
  このとき、
  ・ディスプレイパネルのトラックディスプレイで、曲番を確認してください。
  ・ランダムプレイ中は ⏮/◁◁ キーで前の曲にスキップすることはできません。
- プログラムプレイ中と、ランダムプレイ中のサーチプレイは、現在演奏中の曲の中だけでできます。(押し続けても前の曲や先の曲には進みません。)

ラジオ/テレビを聞く

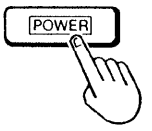
放送局を受信する



● **選局時、周波数は正しく調整してください。**
（正しい周波数は、新聞の番組欄などで確かめてください。）

操　　作	ディスプレイの表示

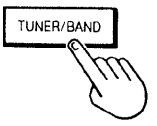
1



押す

電源を入れます。
使用後は必ず電源スイッチを押して電源を切ってください。

2



押す

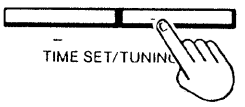
TUNER/BAND（チューナ/バンド）キーを押して聞きたいバンドを選びます。
（押すごとにAM-FM-TV-AM…）と切変わります。

AM放送（522kHz）　A M　522

FM放送（76MHz）　F M　76.0

TV放送（1チャンネル）　T V　1ch

3



押す

TUNING（チューニング）キー（“＋”または“－”）を押して希望の放送局を受信します。
（放送を受信すると、TUNING（チューニング）インジケータが点灯します。）

TUNING（チューニング）キーを押すごとに周波数が切変わります。
AM：9kHzステップで切変わります。
FM：0.1MHzステップで切変わります。
TV：1チャンネルステップで切変わります。

AM放送　522→531→540→549→

FM放送　76.0→76.1→76.2→76.3→

TV放送　1ch→2ch→3ch→4ch→

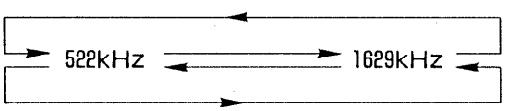
次に選局した放送局をメモリーします。（☞22ページ）

■TUNING（チューニング）インジケータについて

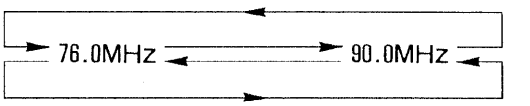
- FMステレオ放送、テレビの音声多重放送を受信したとき：赤色に点灯します。
- AM放送、テレビ、FMのモノラル放送を受信したとき：緑色に点灯します。

- 選局中、周波数が各バンドの上限、下限に達すると、受信周波数（チャンネル）は自動的に各バンド内の下限、上限に切変わります。

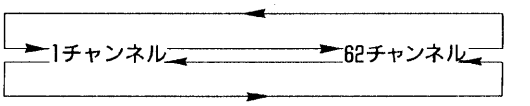
AM放送



FM放送



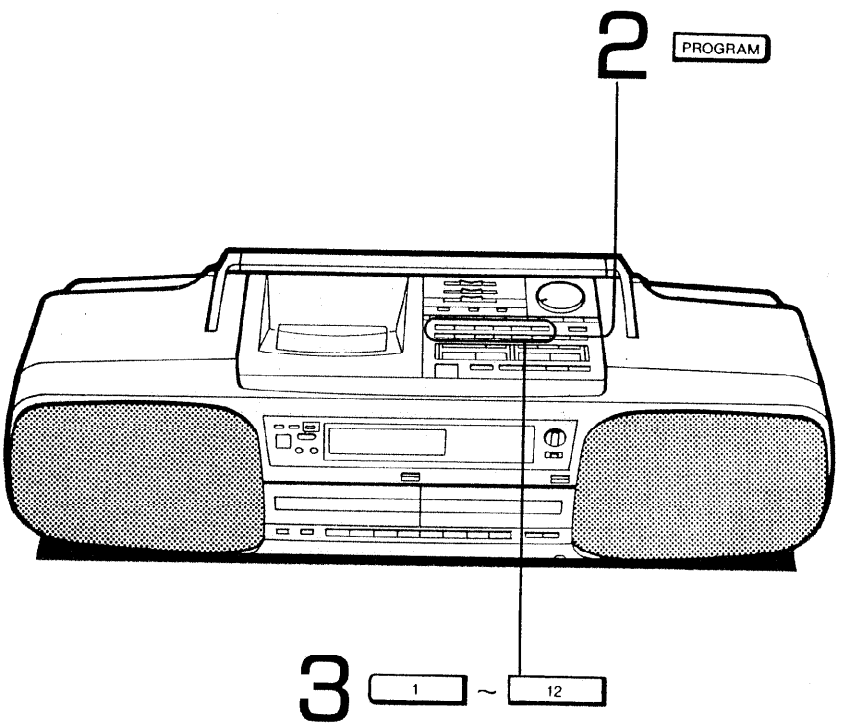
TV放送



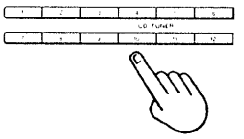
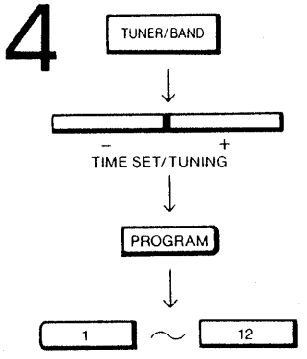
放送局をメモリーする

受信した周波数を数字キーにメモリーします。
1～12のそれぞれのキーに、AM、FM、TVをそれぞれ12局記憶できます。(AM12局、FM12局、TV12局 合計36局)

1 あらかじめ、好みの放送局を選局します。
(☞20ページ)



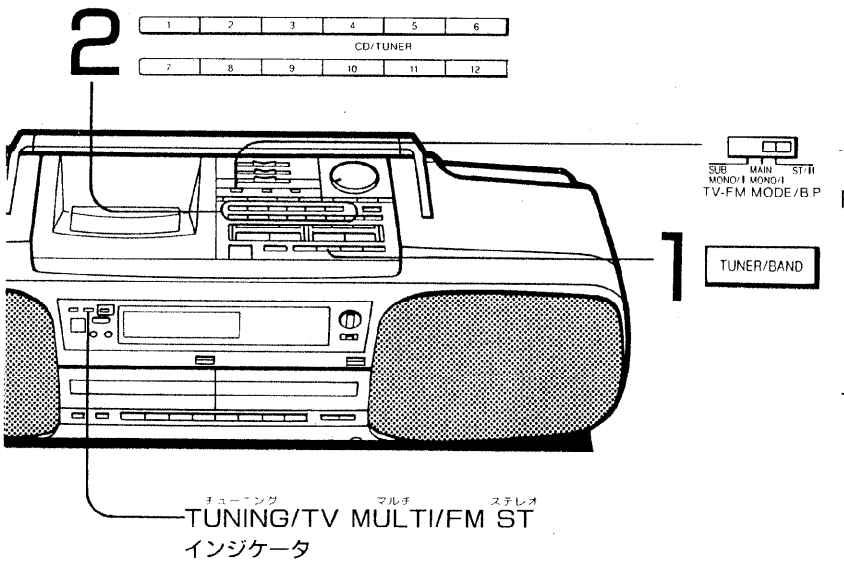
4 1～3の操作をくり返します。

操　　作	ディスプレイの表示
1 好みの放送局を選局します。 (☞20ページ)	テレビの10chを受信した場合 T V 10ch
2 押す PROGRAMキーを押します。 (PROGRAMインジケータが約10秒点滅します。) ●もう一度押すと取消されます。	(テレビの10チャンネル) を受信中のとき T V 10ch PROGRAM PROGRAMインジケータ
3  押す 記憶させたい数字キー (1〜12) を押します。 数字キーは、PROGRAMインジケータが点滅中(約10秒間) に押します。 ● 10 キーを押すと、"10" に記憶されます。	T V 10ch 記憶させた数字キーの番号が点灯します。
4  1〜3の操作をくり返します。 (例) TV放送の8チャンネルを "8" に記憶させるとき。 ①PROGRAMキーを押します。 ② 8 キーを押します。	T V 8ch T V 8ch PROGRAM T V 8ch

ご注意

- すでにプログラムされている数字キーに新しくメモリーすると、前にメモリーした内容は取消されます。(CANCELキーで取消すことはできません。CANCELキーはCDのプログラムの取消し用のキーです。)

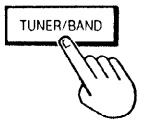
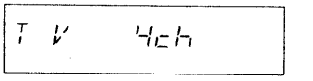
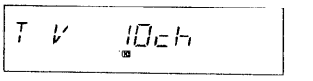
メモリーした放送局を聞く



TV.FM MODEスイッチ

FM放送受信時：通常は「ST」にセットします。電波が弱く、雑音が多いときは「MONO」側にセットすると雑音が少なくなりますが、音声はモノラルになります。

TV放送受信時：☞25ページ

操作	ディスプレイの表示
1  TUNER/BANDキーで聞きたい放送（AM/FM/TV）を選びます。 （押すごとにバンドが切変わり、ディスプレイにバンド名が表示されます。）	
2 1 ~ 12 メモリーされている数字キーを押します。	

■ラストワン選局

本機では、電源を切ったり、他のソース（CDやテープなど）に切換えても、再びTUNER/BANDキーを押すと、最後に受信していた放送局を聞くことができます。

ご注意

- FMステレオ放送やTV音声多重放送受信時、電波の弱いところでは、受信状態が悪くなります。（TUNING/TV MULTI/FM STインジケータの点灯状態が不安定になることもあります。）その場合は、TV･FM MODEスイッチを“MAIN･MONO”に切換えて、モノラルでお聞きください。
- テレビの近くでテレビ放送を本機で受信すると画面がちらつくことがあります。このときはテレビと本機をできるだけ離してお聞きください。

ヒント

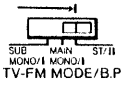
乗り物や建物のなかでは電波が弱まるため、放送が聞こえにくくなることがありますので、できるだけ窓側でお聞きください。

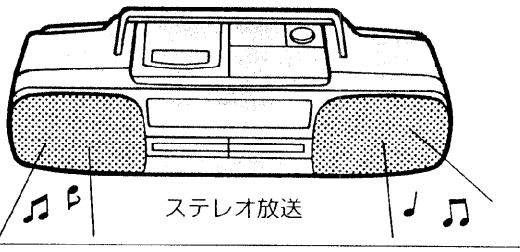
テレビの音声多重放送を聞く

音声多重放送（ステレオ放送や2重音声放送）を受信すると本機のTUNING/TV MULTI/FM STインジケータが点灯します。このとき、TV・FM MODE/B.Pスイッチを以下のように切換えることができます。

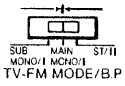
「ST」にセットしたとき

（通常はこの位置にセットしておきます。）

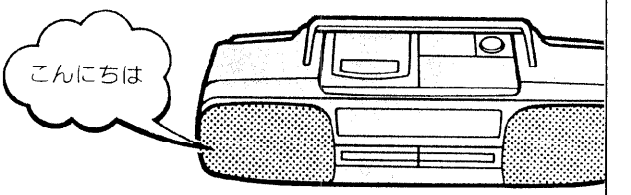




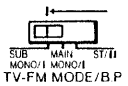
「MAIN」にセットしたとき



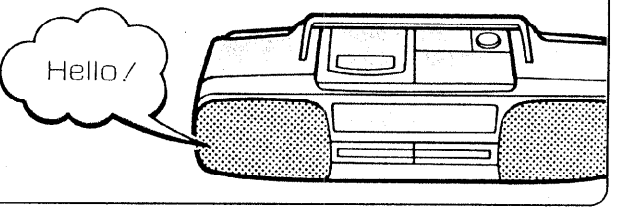
2カ国語放送での日本語放送や、通常のテレビ放送の音声。



「SUB」にセットしたとき

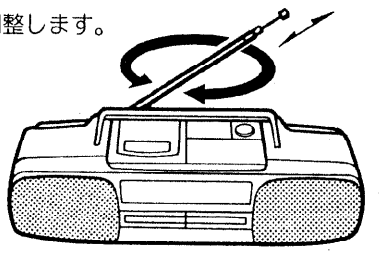


2カ国語放送での外国語放送や、2重音声放送での副音声。

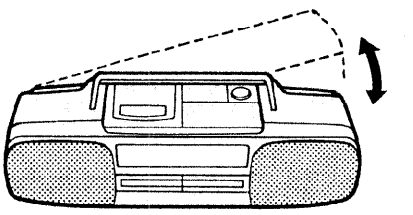


■アンテナの調整（よりよい受信のために）

- **FM、テレビ放送のときは**
  本機後面のホイップアンテナの長さと向きを調整します。



- **AM放送のときは**
  本機の向きを調整します。

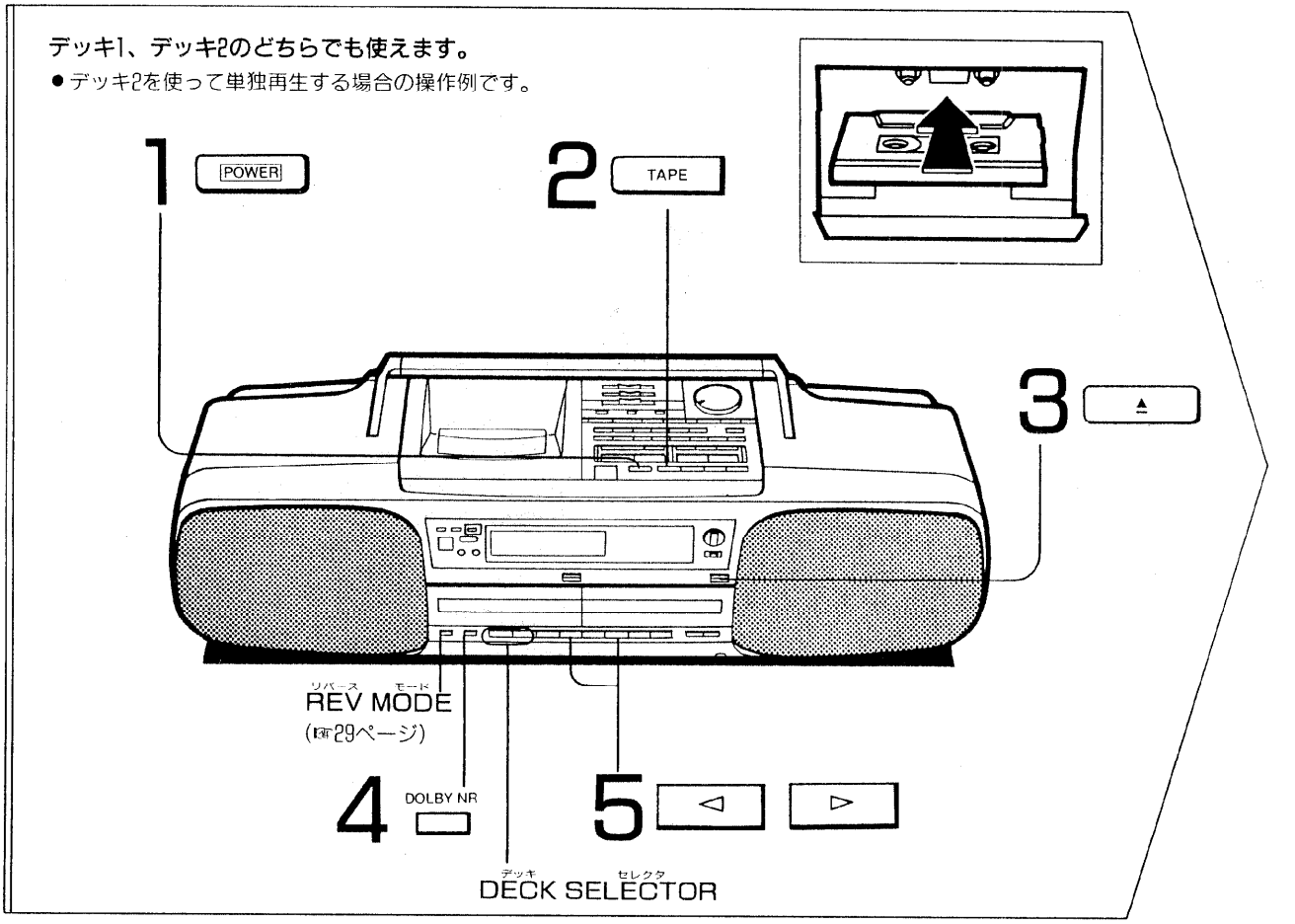


ご注意

- ステレオ放送を「SUB・MONO」位置で聞くと音が小さくなります。かならず「ST」位置でお聞きください。
- 2重音声放送を“ST”位置で聞くと、主音声と副音声が混成音で同時に聞こえます。その場合は、“MAIN・MONO”または“SUB・MONO”を選んでください。

テープを聞く

デッキ1、デッキ2のどちらでも使えます。
● デッキ2を使って単独再生する場合の操作例です。



■デッキセレクタ

本機のデッキ操作キーは、デッキ1・2を兼用しています。カセットをどちらかのデッキに入れるとディスプレイ上に DECK1 または DECK2 インジケータが表示されます。

■オートテープセレクタ

本機は、テープ（ノーマル、クローム、メタルテープ）を装着すると、自動的にテープの種類を識別して、バイアスとイコライザを設定します。

■ドルビーNR

「サー」という高音域の雑音（ヒスノイズ）を減らすシステムで、録音時には高い周波数部分のレベルを上げ、再生時にその分だけレベルを下げて元に戻します。
本機にはドルビーNRのBタイプとCタイプを搭載しています。

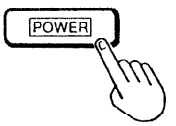
■テープを止めるには
□ キーを押します。

■Bタイプ
ノイズは約1/3になります。
録音時と、市販のテープなどで、「ドルビーNR録音」されたテープを再生するときご使用ください。

■Cタイプ
ヒスノイズは約1/10になります。CDの演奏音や、FM放送の生中継など、音質が良くダイナミックレンジの広いソースを録音・再生するときにご使用ください。

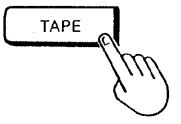
テープを聞く

操　　作	ディスプレイの表示

1 

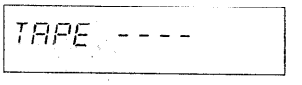
押す

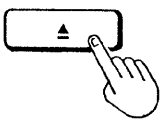
電源を入れます。
使用後は必ずこのスイッチを押して電源を切ってください。

2 

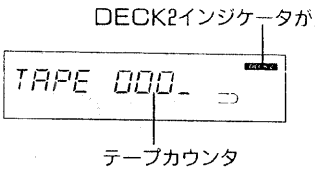
押す

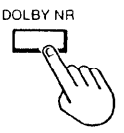
「TAPE（テープ）」にします。



3 
押す

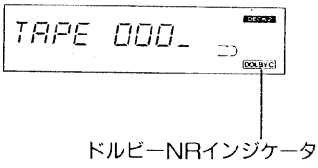
デッキ2にテープを入れます。

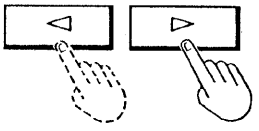


4 

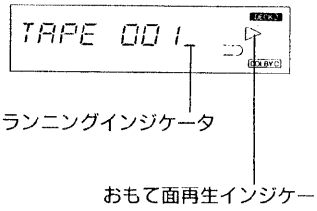
押す

録音されているテープのDOLBY（ドルビー） NRに合わせます。（押すと、ディスプレイにドルビーNRインジケータが点灯します。）
（押すごとにドルビーNR Bタイプ、Cタイプ、ドルビーNR「切」と切換わります。）



5 

再生を始めます。
▷: おもて面（テープが見えている面）からの再生。
◁: うら面からの再生。
（演奏中に逆方向のキーを押すと再生面が切変わります。テープの走行方向に応じてランニングインジケータが移動します。）
● 両面再生をするときは ▷ キーを押します。
（☞29ページ）



■カセットを両方のデッキに入れたとき
- DECK（デッキ）1・2インジケータの点灯している側のデッキが働きます。
- 動作するデッキを切換えたいときは、希望のDECK（デッキ） SELECTOR（セレクタ）キーを押してください。
- カセットを後から入れた方のデッキに切換わります。
- 電源を入れたときは、動作できるデッキは必ずデッキ2になります。

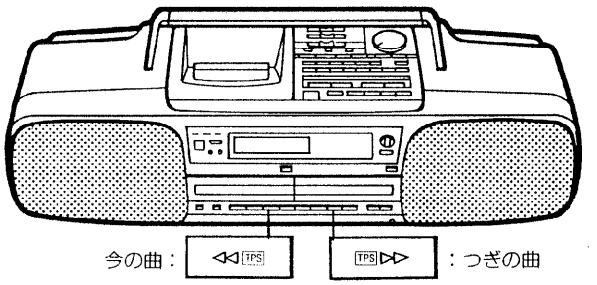
便利メモ

片方のデッキで再生中、DECK（デッキ） SELECTOR（セレクタ）キーを切換えると、もう一方のデッキで早送り/巻戻し操作ができます。
その場合、早送り/巻戻し操作が終われば、再度DECK（デッキ） SELECTOR（セレクタ）キーを押して動作できるデッキを元へ戻しておきます。

曲の頭出しをする(TPS)

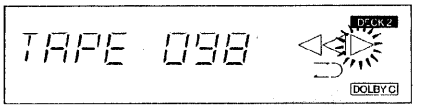
再生中、今聞いているところから前後の曲間にとびこして、曲の始めから再生ができます。
(TPS：Tape Program Sensor)

●テープ再生中に押します。



今、聞いている曲の頭出しをするには

正転(▷)再生中に◁◁ TPS キーを押すと…
今聞いている曲の頭に戻って再生します。



つぎの曲の頭出しをするには

正転(▷)再生中に TPS ▷▷ キーを押すと…
次の曲の頭から再生が始まります。

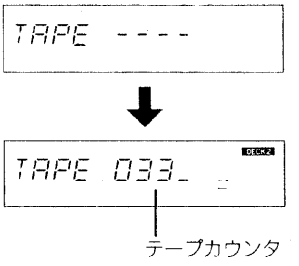
●曲の頭出しは、反転（◁）再生中は上記とは逆の働きになります。

テープカウンタ

録音の前にテープカウンタの数字をメモしておくと、曲の頭出しのときに便利です。

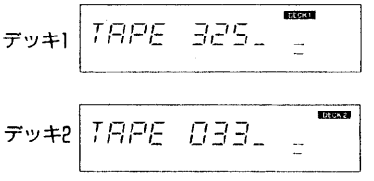
1 DECK1またはDECK2にテープを入れる。

(テープカウンタは、片方のみにテープを入れたときは、そのデッキのカウンタ表示になります。両方入れたときは、後から入れた方のカウンタ表示をします。)



2 DECK SELECTORで、使用するデッキを選ぶ。

(選んだデッキのカウンタを表示します。)



(デッキ1、2とも、切換える前の数字を覚えています。)

3 COUNTER RESETボタンを押す。

(数字が000にリセットされます。)

●反転（◁）再生/録音中は、カウンタの数字の動きも逆になります。
(000→999→998……)
●カウンタのリセットは、デッキ1、デッキ2それぞれで行ないます。

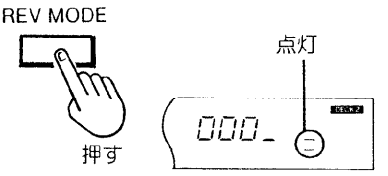
ご注意

次のような場合、TPSが正常に動作しないことがありますが、故障ではありません。
●テープの曲間が4秒未満のとき
●マイクロホンから録音したテープの再生（無音部分がない場合があります。）
●曲の中で特にレベルの低いところや無音部分のある場合
●今聞いている曲の頭または次の曲の頭までが、10秒以下の場合

リバースモード

REV MODE（リバース モード）スイッチは、押すごとにつぎのように切換わります。

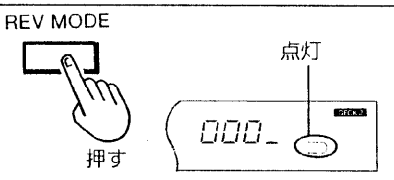
片面録音/再生モード（ ⇀ ）



おもて面から スタート → オート ストップ

オート ストップ → うら面から スタート

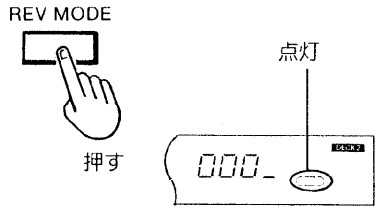
両面録音/再生モード（ ⇄ ）



おもて面から スタート → 反転

オート ストップ

エンドレス再生モード・2巻両面連続エンドレス再生モード（ ⇄ ）



・デッキ1または2の片方にカセットを入れると

反転 ⇄ 反転

停止キーを押すまで連続して再生をくり返します。

・デッキ1とデッキ2の両方にカセットを入れると

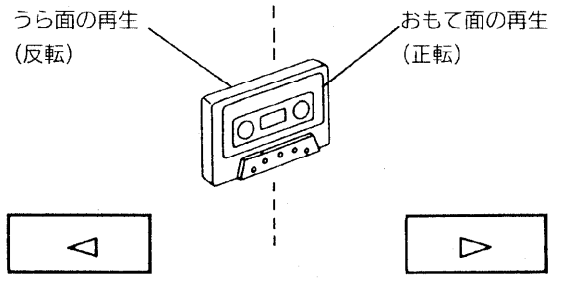
デッキ1 おもて面 うら面

⇩

デッキ2 おもて面 うら面

デッキ1とデッキ2でエンドレス再生をします。

テープの走行方向



フルオートストップ

録音、再生、早送り、巻戻し中に、テープが終端までくると、自動的にテープ走行が停止します。

ただし、再生時にREVERSE MODE（リバース モード）インジケータが“ ⇄ ”状態ではオートストップは働きません。

ご注意

- 両面録音/再生時（ ⇄ ）は、うら面からスタートすると、うら面だけ録音または再生してオートストップします。
- ⇄ モードは、録音時は、両面録音モード（ ⇄ ）になります。

録音をするまえに

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

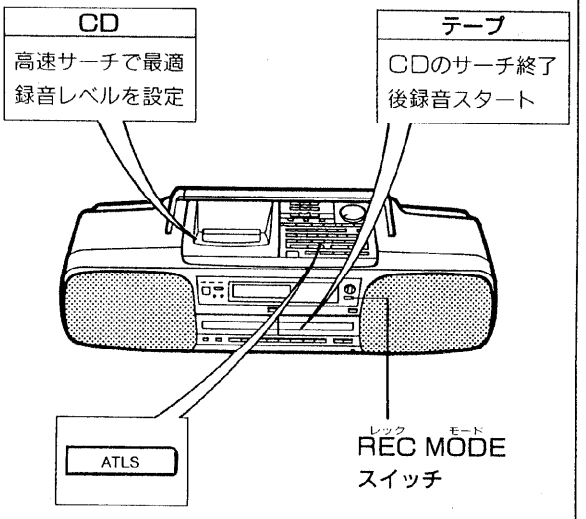
録音レベルの設定には以下の方法があります。REC MODEスイッチをつぎのように切換えます。

1 自動録音(AUTO/ATLS)

REC LEVELつまみの位置に関係なく、簡単に自動録音できます。

ATLS録音
(Automatic Tape Level Setting)

ダイナミックレンジが広く、録音レベルの差が大きいCDの最適かつ確実な録音には、録音レベルの設定が重要です。ATLS録音では、従来の自動録音の手軽さでリニアリティーの高い自動CD録音が可能です。録音ポーズ状態からATLSキーを押すだけで、マイコンにより、CDを高速でサーチし、録音レベルを設定後、自動的に録音を開始します。



- REC MODEスイッチは必ずAUTO/ATLSにしてください。
- 高速サーチ中、ATLSキーをもう一度押すと、ATLS録音は解除されます。
- ATLS録音中にCDを止めると、レベル設定が解除されます。
- ATLS録音中にCDを止めたり、REC MODEスイッチを切換えると、レベル設定が解除されます。

2 マニュアル録音(MANUAL)

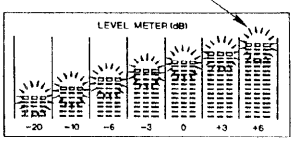
録音レベルディスプレイを見ながら、REC LEVELつまみでお好みの録音レベルに調整することができます。

- CD演奏、ラジオ/TV放送、AUX INジャックからの録音時には、演奏（受信）状態で録音レベルの調整ができます。

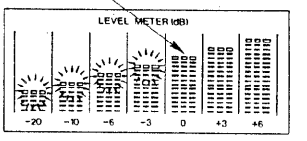
■録音レベルディスプレイの見かた

大きな音が入ってきたときに、“+3”がときどき点灯するくらいが最適な録音レベルです。
(瞬間的に“+3”をこえて点灯してもさしつかえありません。)

- “+6”がひんぱんに点灯するときは、音の割れたひずみが目立つ録音になります。

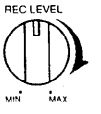


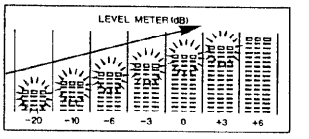
- “0”がほとんど点灯しないときは、音が小さく、テープノイズの目立つ録音になります。
(曲によっては最大レベルが低いものもあります。)



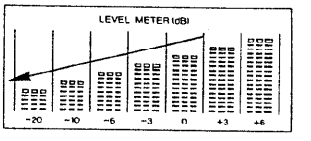
DJ（ディスクジョッキー）スタイルで、フェード・イン、フェード・アウトなどの音作りが楽しめます。

フェード・イン
(録音レベルを徐々にあげる)





フェード・アウト
(録音レベルを徐々にしぼる)



ご注意

- マニュアル録音するとき以外は、REC MODEスイッチを“AUTO/ATLS”にしておいてください。
- 動作切換キーが“TAPE”の位置では、REC LEVELつまみで録音レベルを調整できません。

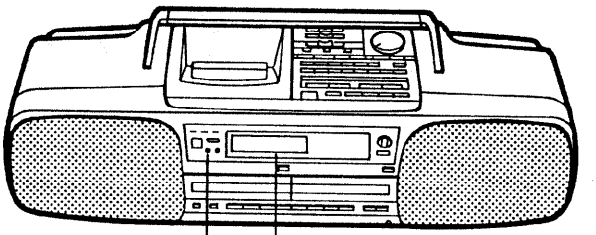
■大切な録音を誤って消さないために

録音を消したくないときは、カセットテープの安全片を折り取っておくことをおすすめします。(☞57ページ)

ディスプレイの表示を切換える

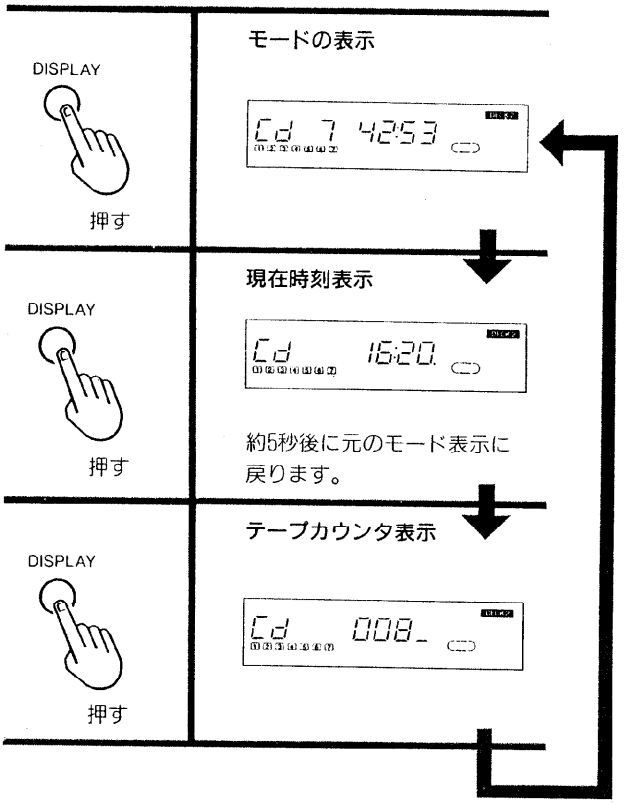
本機のマルチディスプレイは、DISPLAYボタンを押すごとに、各モードの表示から、現在時刻、テープカウンタ表示へと切換えることができます。

録音時にテープカウンタの数字をメモするときや、録音したい番組に備えて、現在時刻を確認するときに便利です。



DISPLAYボタン　ディスプレイ

■動作切換キーが CD のとき

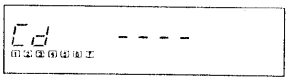


録音中の音をチェックする(モニタ)

モニタとは、録音している音を~~同時に~~スピーカやヘッドホンで聞くことです。

VOLUMEつまみで音量を調整します。

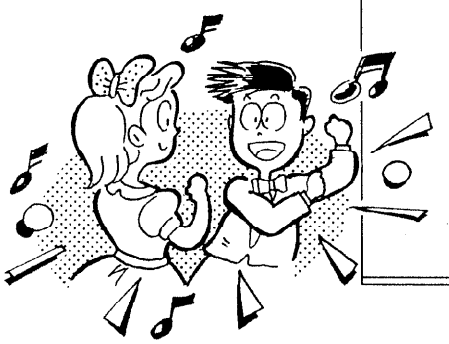
●テープカウンタ表示のとき、テープがDECK1、2とも入っていないときは下記の表示になります。



CDを録音する

CD録音時に、テープがおもて面からうら面へ切変わるときに、曲が途中で途切れることなく録音できるCDエディット録音機能があります。
CDエディット録音機能には以下の3種類があります。

名　　称	特　　長
オートエディット録音 AUTO EDIT (A/B)	指定したテープの長さに応じて、本機のマイコンがテープA面、B面に録音できる曲を振り分けます。 録音の曲順は、CDの曲順になります。
フィットエディット録音 FIT	オートエディット録音で全曲が録音できないとき、フィットエディット録音機能を使います。これはマイコンが録音する曲の順序を入れかえて全曲録音できるように、テープのA面、B面に録音する曲を振り分けます。
マニュアルエディット録音 M.EDIT	指定したテープの長さに応じて、録音したい曲や、録音順をあらかじめ指定できます。 また、残りの録音できる時間を確認しながら曲を予約できます。



このように録音されます

CDの曲順に録音されます。

SIDE A
1 2 3 4 5

SIDE B
6 7 8 9 10

曲順を入れかえることにより全曲録音できないかをマイコンが計算します。

SIDE A
1 2 4 7 8

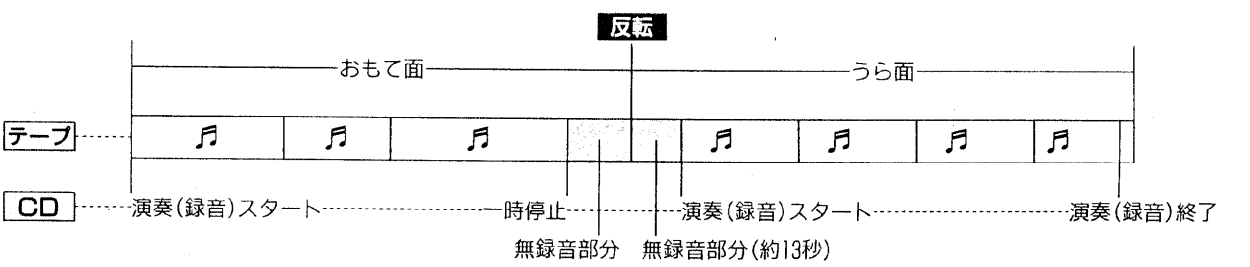
SIDE B
3 5 6 9 10 11 12

録音したい曲と順番を指定できます。

SIDE A
2 5 7 11

SIDE B
6 10 12

■動作の流れ



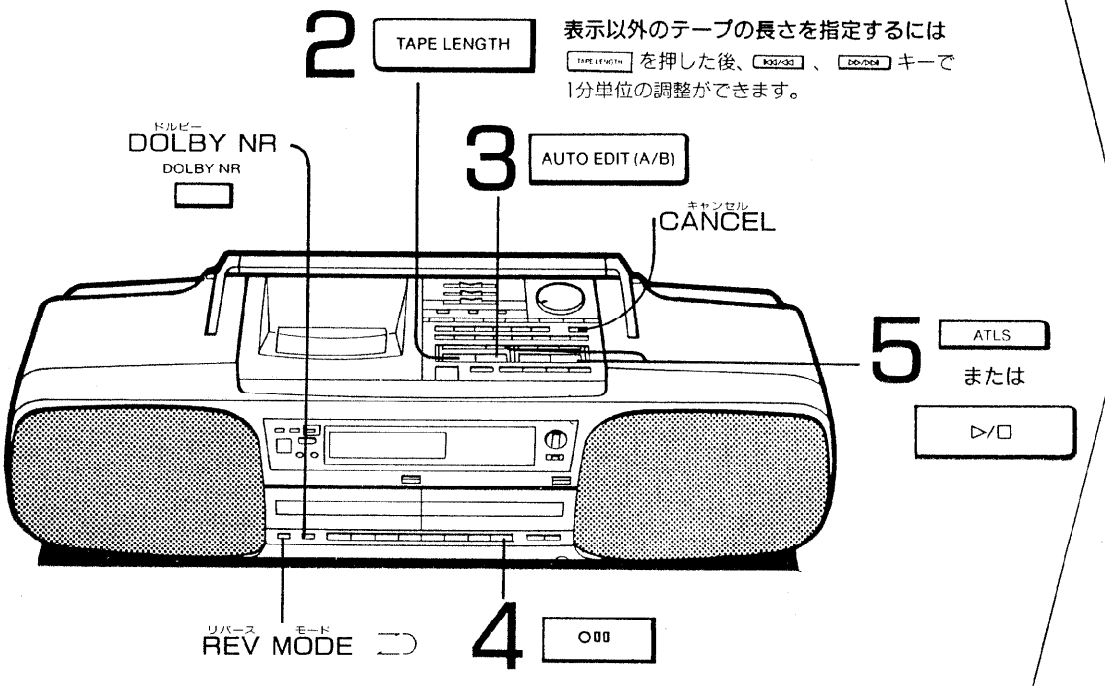
CDを録音する

CDの曲順に録音する(オートエディット録音)

録音の前に

・テープに誤消去防止用の安全片はついていますか?
・リーダーテープ部分はあらかじめ巻取っておきます。

1 "CD" にし、ディスクを入れ、デッキ2にカセット (安全片付) を入れます。



■録音を止めるには

▷/□ : CDは止まり、テープは録音待機状態になります。(CDシンクロ録音機能)
□ : テープは止まりますが、CDはそのまま演奏を続けます。
(両方止めるときは ▷/□ と □ を押します。)

■CDオート/フィットエディット録音モードを取消すには

CANCEL(キャンセル)キーを押します。

■録音できるCDの曲数

36曲までのCDが使用できます。
(37曲以上入ったCDで操作しても"E"が表示され、操作はできません。)
37曲以上入っているCDを録音するときは、マニュアルエディット録音 (☞38ページ) で36曲以内の予約をして録音してください。

手順3での表示をもう1度表示させるには

もう1度 AUTO EDIT(A/B) を押します。
(押すごとに手順3の①テープA面、②B面、③同時表示と切換わります。)

ご注意

- REV MODE(リバース モード)スイッチは必ず " ⇒ " にしてください。
- エディット録音機能を使って録音しているときは ▷/□ 以外のCD操作は受け付けません。("E" が表示されます。)
- CDエディット機能を使って、CDの演奏のみをすることはできません。("E" が表示されます。)

CDを録音する

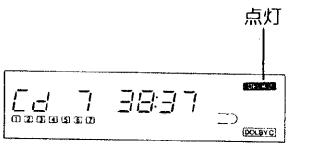
操　　作	ディスプレイの表示

1

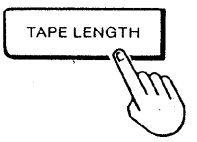
POWER
↓
CD
↓
CD EJECT
↓
▲

“CD” にし、ディスクを入れ、デッキ2にカセット（安全片付）を入れます。

- DECK2インジケータが点灯します。
- お好みに応じてドルビーNRを選ぶこともできます。



2

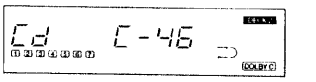


録音するテープの長さを指定します。

- 押すごとに下図のように切換わります。

C-46 → C-54 → C-60 → C-90

（表示以外のテープの長さを指定するときは、[TAPE LENGTH]を押した後、[▷▷/◁◁]、[▷▷/◁◁]で1分単位の調整ができます。）

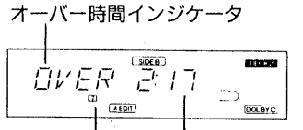


3

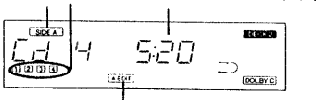
AUTO（オート） EDIT（エディット）キーを押します。

（オートエディットインジケータが点灯し、カセットテープのA面、B面に録音する曲を振り分け、その内容を約2秒間表示します。）

- B面に入り切らない曲があるときは右の②の表示の後、次の表示が出ます。そのときは、☞36ページへ
- このまま録音を始めることもできますが、7曲目は途中で録音が途切れます。

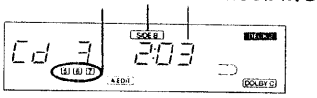


①（テープA面には4曲録音して、5分20秒残る）



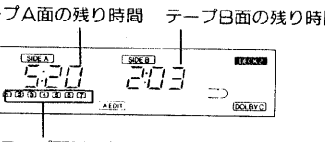
2秒後 ↓

②（テープB面には3曲録音して2分3秒残る）

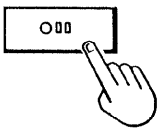


2秒後 ↓

③（テープA/B面に録音できる曲と、それぞれの残り時間表示になる）



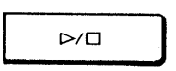
4



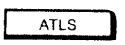
REC（レック） PAUSE（ポーズ）キーを押します。

録音インジケータが点灯し、再生インジケータが両方点滅します。

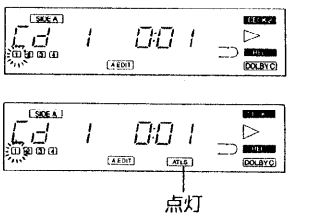
5



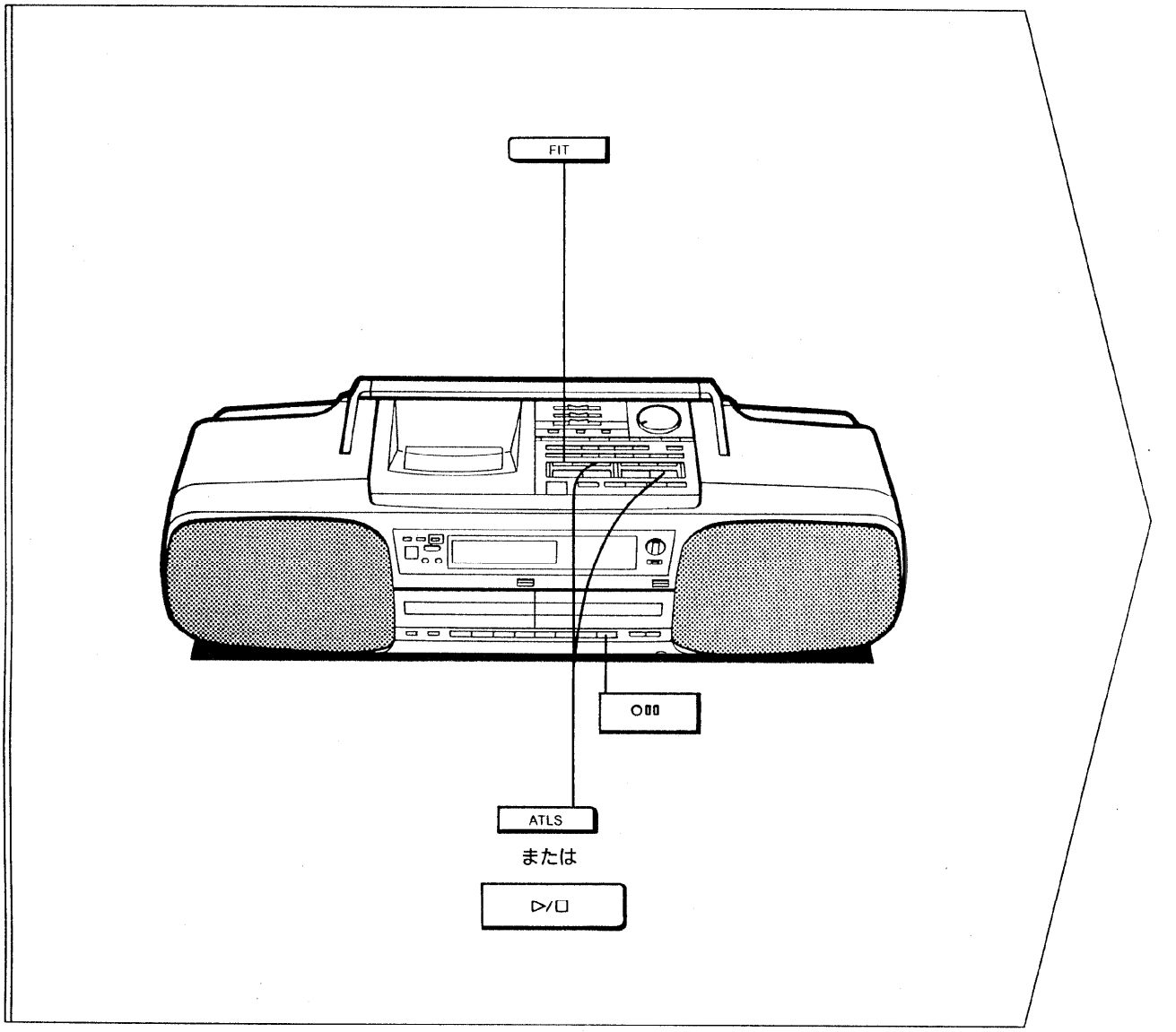
または



- マニュアル録音、自動録音の場合：
  演奏/停止キーを押します。
  （録音が始まります。）
- ATLS録音の場合：
  ATLSキーを押します。
  （CDごとに録音レベルを設定して録音が始まります。）



オートエディット録音で、B面に入りきらない曲がでたときは (フィットエディット録音)



■演奏順序を確認するには

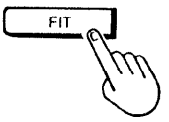
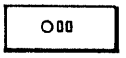
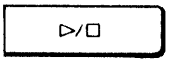
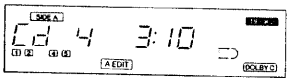
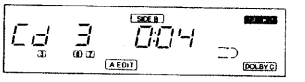
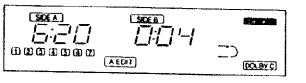
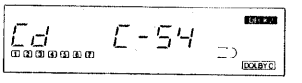
停止時に、 DISPLAY/CLOCK または ⏮/◁◁ を押すと、押すごとに曲番と演奏順序をマルチディスプレイ上で確認できます。

■エディット録音機能を使わずにCDを録音するには

35ページ手順1,4~5をします。(プログラムプレイもできます。)

(このとき、REV MODE(リバースモード)スイッチは ⇄ 、 ⇉ を選ぶことができます。)

- 録音中にCDのサーチプレイ (☞19ページ) はしないでください。早送り (早戻し) した音がそのまま録音されます。

操　　作	ディスプレイの表示
曲順を入れかえてでも全曲録音したいとき  押す **①FIT（フィット）キーを押します。** （35ページの手順3と同じようにA面、B面に録音できる曲と、その残り時間を表示します） **②REC PAUSE（レック ポーズ）キーを押します。** **③●マニュアル録音、自動録音の場合：** **演奏/停止キーを押します。** （録音が始まります。） **●ATLS録音の場合：** **ATLSキーを押します。** （CDごとに録音レベルを設定して録音が始まります。）  または  	  
曲順どおりに録音したいとき、または FIT（フィット）キーを押してもOVER（オーバー）時間表示が出たとき より長いテープをお使いください。 もう一度35ページの手順2から操作します。	

■OVER時間表示が10～15秒程度のときは

テープの録音時間は、テープに表示されている時間よりも少し長めになっていますのでそのまま全曲録音できることがあります。

ご注意

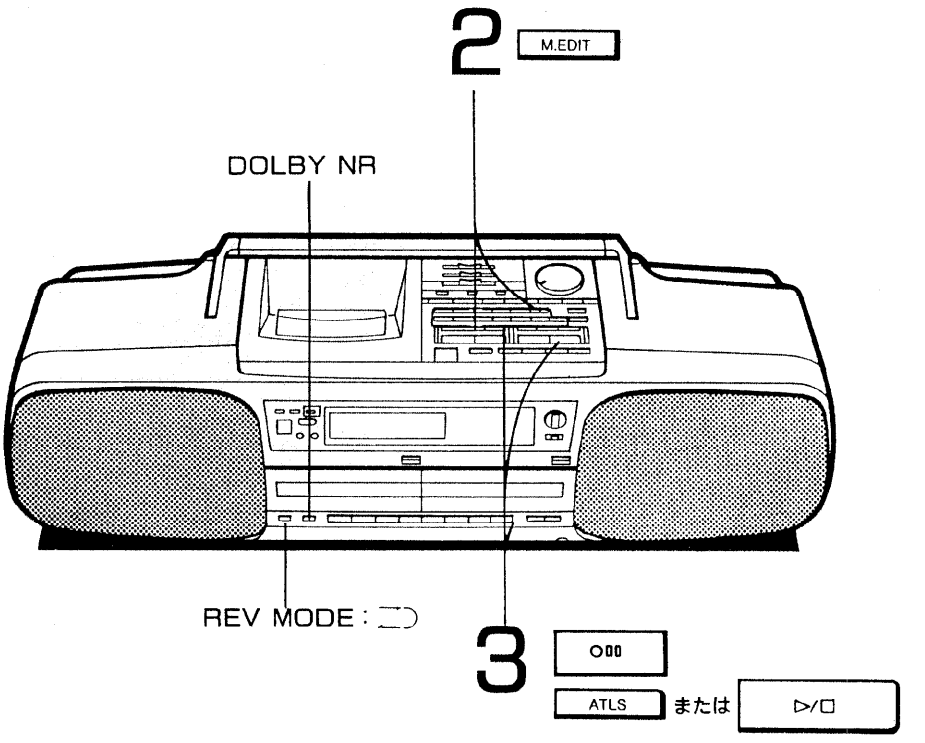
フィットエディット録音時は、テープの長さは必ずCDの総演奏時間よりも長い時間を指定してください。
（総演奏時間より短かいテープの時間を指定してFIT（フィット）キーを押しても“E”表示が出て、操作できません。）

録音する曲と順序を指定して録音する(マニュアルエディット録音)

■録音の前に

- テープに誤消去防止用の安全片はついていますか?
- リーダーテープ部分はあらかじめ巻取っておきます。

1 CDとテープを入れ、テープの長さを指定します。



便利メモ

DECK(デッキ)1インジケータが点灯していても、録音ポーズキーを押すと、自動的にDECK(デッキ)2インジケータが点灯し、デッキ2を操作できます。

- デッキ2が録音(または録音ポーズ)状態になると、デッキ1を操作できません。

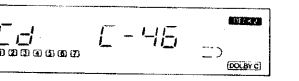
CDを録音する

操　　作	ディスプレイの表示

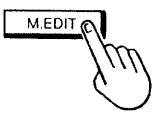
1

POWER
↓
CD
↓
CD EJECT
↓
▲
↓
TAPE LENGTH

CDとテープを入れ、テープの長さを指定します。



2



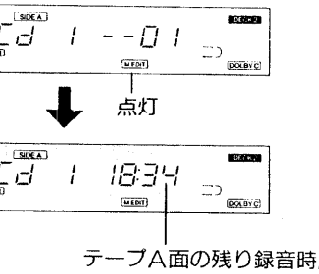
押す

1 ～ 12 、+10
（録音したい曲番を指定）

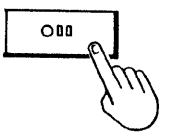
マニュアルエディット
M.EDITキーを押し、1 ～ 12 、+10 キーで録音したい曲を順番に指定します。
（マニュアルエディットインジケータが点灯します。）

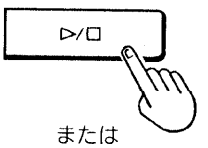
- テープA面分の残りの録音時間がなくなったときは、自動的にB面に切換わります。）
- 最高36曲まで予約できます。

1.5秒後に、テープ片面の残りの録音時間表示になります。

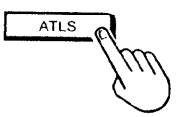


3





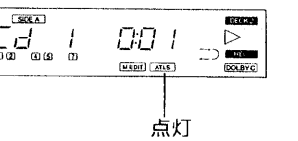
または



録音を始めます。
（指定した順番で録音が始まります。）

- 自動録音の場合：
  演奏/停止キーを押します。
  （録音が始まります。）

- ATLS録音の場合：
  ATLSキーを押します。
  （CDごとに録音レベルを設定して録音が始まります。）



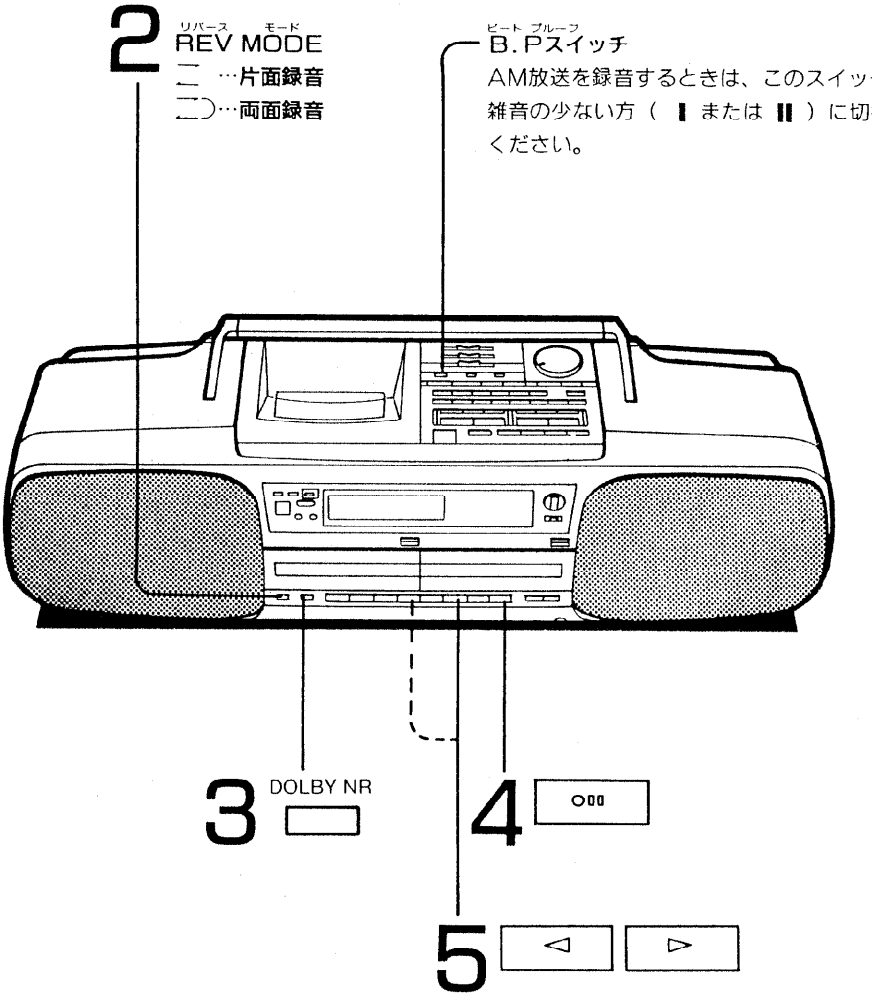
■指定した曲を取消すには

・最後に予約した1曲を取消すとき
CANCEL（キャンセル）キーを押す。

・全て取消すとき
①M.EDIT（マニュアルエディット）キーを押します。
（ M.EDIT インジケータが約5秒間点滅します。）
②インジケータが点滅中にCANCEL（キャンセル）キーを押します。

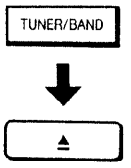
ラジオ/テレビを録音する

1 **ラジオを聞く状態**（TUNER）にし、デッキ2に**テープ**（安全片付き）を入れます。
（リーダーテープ部分はあらかじめ巻取っておきます。）

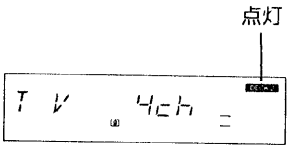


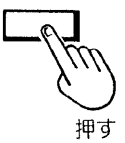
ラジオ/テレビを録音する

操　　作	ディスプレイの表示

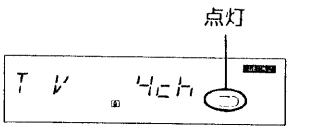
1 

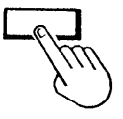
ラジオを聞く状態にし、デッキ2にテープ(安全片付き)を入れます。
(リーダーテープ部分はあらかじめ巻取っておきます。)



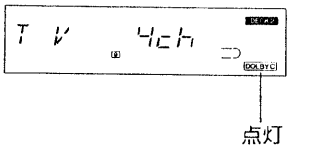
2 

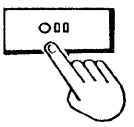
REV MODE(リバース モード)を選びます。
二 : 片面の録音
二⊃: 両面の録音



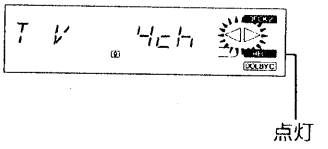
3 

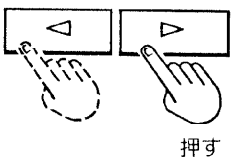
DOLBY NR(ドルビー) Bタイプ/Cタイプ)を選びます。
(押すと、ディスプレイに DOLBY B または DOLBY C インジケータが点灯します。)
ドルビーNR録音をしないときは、ボタンを押してインジケータを消します。



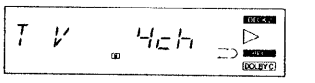
4 

○▯▯(REC(レック) PAUSE(ポーズ))キーを押します。
(録音インジケータが点灯し、再生キーのインジケータが点滅して録音待機状態になります。)



5 

録音したい面の再生キー(▷または◁)を押します。
(録音が始まります。)



■両面録音するときは
おもて面から録音を始めます。

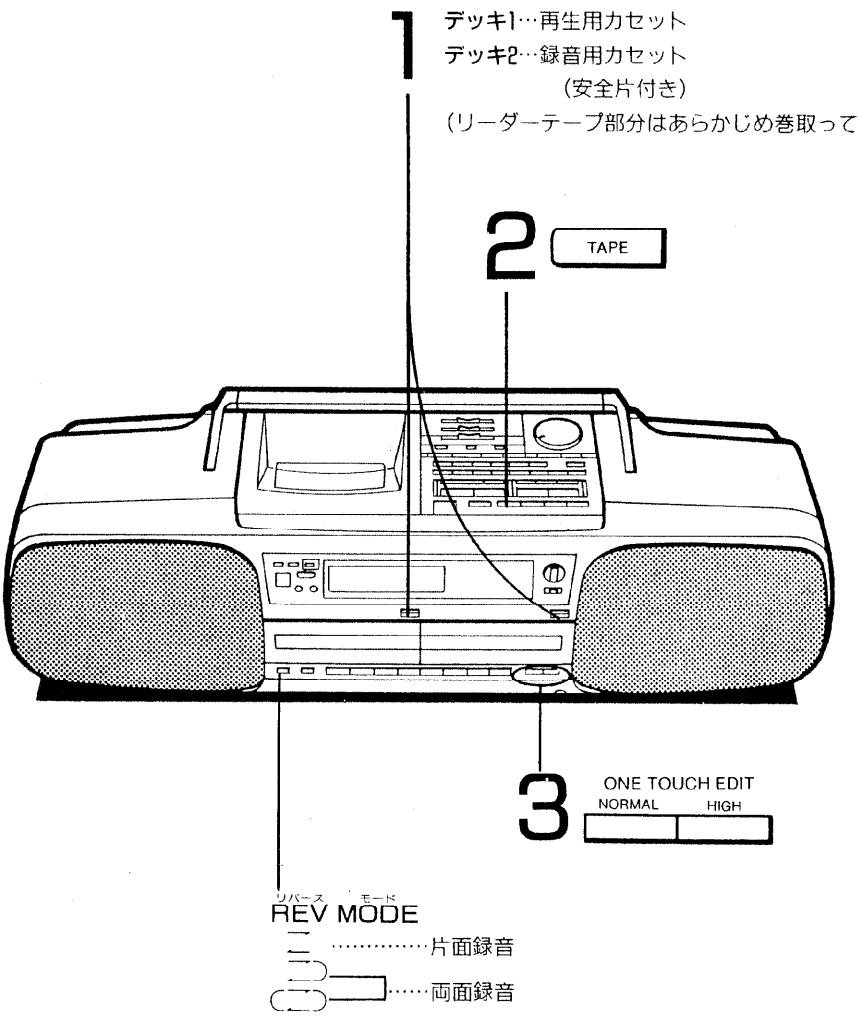
■録音を止めるときは
□ を押します。

■録音を一時止めるときは
○▯▯ を押します。

テープ編集する

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、
著作権法上、権利者に無断で使用できません。

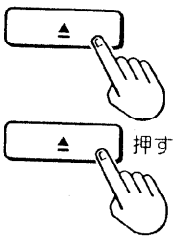
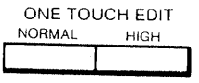
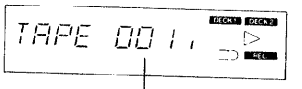
デッキ1→デッキ2にそれぞれのテープのそのままの位置のおもて面からワンタッチ編集できます。



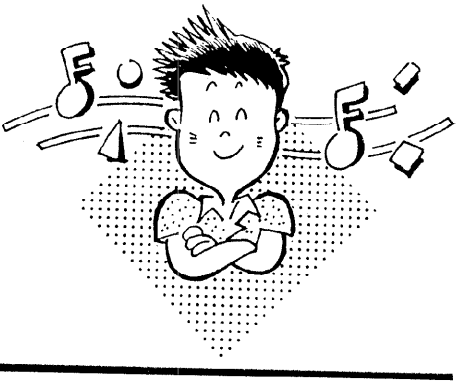
ご注意

- 長時間編集するときは、途中で消耗するおそれのある乾電池より、家庭用電源をご使用ください。
- テープ編集中は動作切換キーを切換えないでください。テープ編集が止まります。
- テープ編集中は、編集速度を切換えることはできません。
- うら面から編集録音を始めることはできません。
- テープ編集中、本機とテレビを近づけると、テレビから出る電波の影響でノイズ（雑音）が録音されることがあります。本機とテレビの距離を約1.5m程度離してご使用ください。

テープ編集する

操　　作	ディスプレイの表示
1  **デッキ1に再生用カセット、デッキ2に録音用カセット(安全片付き)を入れます。** (リーダーテープ部分はあらかじめ巻取っておきます。)	
2 **“TAPE(テープ)”にします。**	後からカセットを入れた側のデッキインジケータが点灯します。
3  **編集速度を選びます。** (テープのおもて面から編集録音が始まります。) NORMAL(ノーマル)…通常の速度 HIGH(ハイ)……通常の約1.7倍の速度	 デッキ2側のテープカウンタ表示をします。

- テープ編集時はマニュアル録音(☞30ページ)はできません。また、DOLBY(ドルビー) NRを効かせて録音することもできません。
  デッキ1のテープに録音されている音がそのまま同じレベルでデッキ2へ録音されます。
- ドルビー録音されたテープを編集中のモニタ音は、DOLBY(ドルビー) NRスイッチを押すと(ドルビーB/Cインジケータが表示)正しく再生されます。



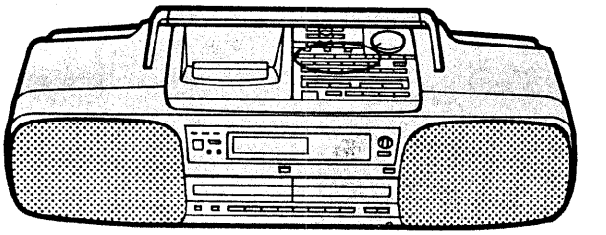
■編集録音を止めるときは

[0] キーを押します。
(停止)

- テープがどちらかの終端でオートストップすると、同時にもう一方もオートストップします。(シンクロストップ)

タイマー時刻をセットする

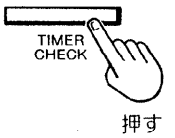
内蔵の時計を使って、FM放送などを録音したり、目覚し代わりに演奏することができます。
時刻は、タイマーON時刻（電源が入る時刻）と、タイマーOFF時刻（電源が切れる時刻）をセットします。
本機の時計は、24時間表示です。

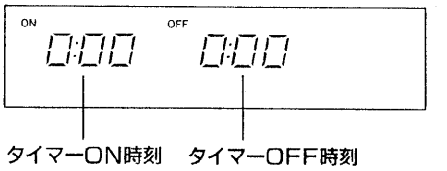


■タイマー時刻のセットのまえに

●タイマー時刻をセットするモードにするには

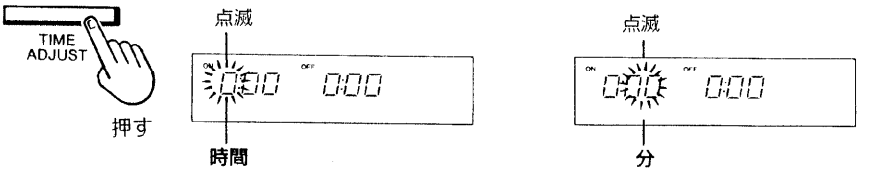
TIMER（タイマー） CHECK（チェック）キーを押します。





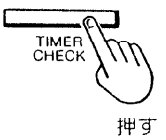
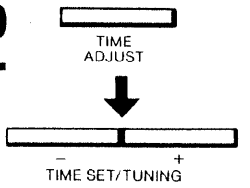
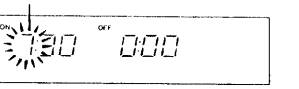
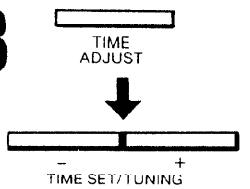
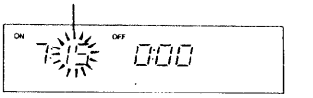
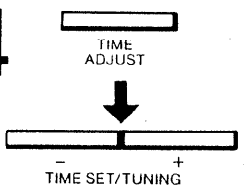
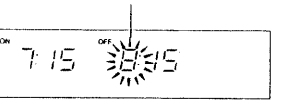
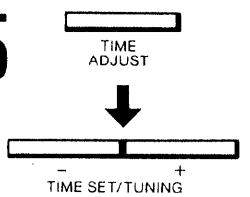
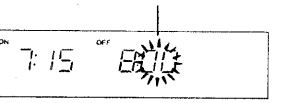
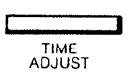
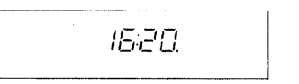
●それぞれの時刻をセットするモードにするには

TIME（タイム） ADJUST（アジャスト）キーを押すごとに「時間」→「分」と切り変わります。



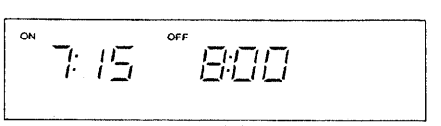
では、例として、午前7時15分に電源が入り、8時に電源が切れるように、タイマー時刻をセットしてみます。

タイマー時刻をセットする

操　　作	ディスプレイの表示
1  押す **ON(タイマー"入")時刻のセット** TIMER CHECKキーを押します。	 約10秒以上、次の操作までに間隔があくとディスプレイは元の表示に戻ります。
2  TIME ADJUSTキーを押して時刻調整キー(「+」または「−」)で「時間」を合わせます。	点滅  ●点滅時のディスプレイは、約20秒後に現在時刻に戻ります。
3  TIME ADJUSTキーを押し、時刻調整キーで「分」を合わせます。	点滅 
4  **OFF(タイマー"切")時刻のセット** TIME ADJUSTキーを押し、時刻調整キーで「時間」を合わせます。	点滅 
5  TIME ADJUSTキーを押し、時刻調整キーで「分」を合わせます。	点滅 
6  TIME ADJUSTキーを押します。	元の表示に戻ります。 

■セットした時刻を確認するには

TIMER CHECK キーを押します。



●タイマーセット状態(TIMERインジケータ点灯中)に、もう一度押すと、予約したサウンドソース（CD、テープ、ラジオなど）の確認ができます。

■セットした時刻を変更するには

変更したい時刻のモード（ON/OFF）に合わせた後、同じ手順で変更できます。

●**タイマーON(入)時刻のみの変更：** 手順1～3の後、TIMER CHECK キーを押します。

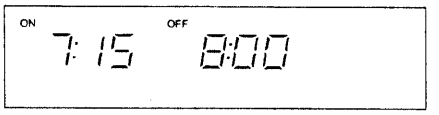
●**タイマーOFF(切)時刻のみの変更：** TIMER CHECK キーを押し、TIME ADJUST キーを2回押してから手順4～6をします。

タイマー演奏/録音をする

本機では、タイマー演奏時に好みの音量をセットできます。音量は、その後のご使用位置にかかわらず、セットした位置で演奏されます。

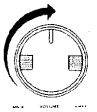
●あらかじめ現在時刻を確認してください。

1 タイマー時刻をセットします。
(☞45ページ)

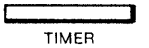


2 タイマー演奏、またはタイマー録音をするサウンドソースの準備をします。(47ページ)

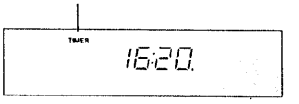
3 ①演奏時の音量を調整し、



②TIMERキーを押します。



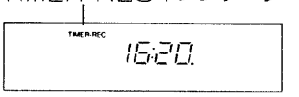
TIMERインジケータが点灯



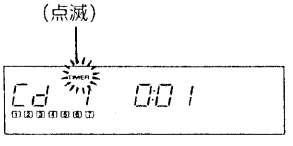
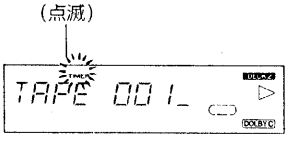
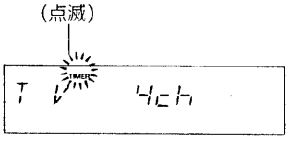
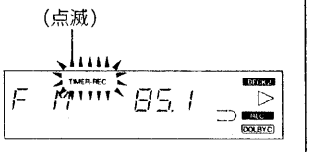
4 ■タイマー演奏時は、TIMER-RECスイッチは"OFF"にします。

■タイマー録音時は、TIMER-RECスイッチを"ON"にします。

TIMER-RECインジケータ



●希望の時刻になると……

CDの演奏	テープの演奏	テレビ/ラジオの演奏	タイマー録音
(点滅) 	(点滅) 	(点滅) 	(点滅) 
1曲目から、または希望の曲からセットした音量で、演奏が始まります。	曲の再生がセットした音量で始まります。	ラジオ・テレビ放送をセットした音量で受信します。	ラジオ・テレビ放送の録音が始まります。

●ON(入)時刻とOFF(切)時刻が同時の場合はONタイマーとして働き、電源が入ったままになります。

●タイマー録音時、音量をしぼっておきたい場合は、VOLUMEつまみを最小位置にセットしてからTIMERキーを押します。

●テープのタイマー再生はデッキ1、2のどちらでもできます。
デッキ2のタイマー再生…デッキ2にカセットを入れる。
(両方のデッキにカセットが入っている場合はデッキ2のタイマー再生になります。)
デッキ1のタイマー再生…デッキ1のみにカセットを入れる。

●タイマーのセットは電源が"切"でもできます。
タイマー演奏のセット時、下記の手順で操作しますと、深夜でも周囲の人に迷惑をかけることがありません。
①音量を絞ってからタイマー時刻をセットして、聞きたい音を選ぶ。
②POWERスイッチを押して電源を切り、VOLUMEつまみを演奏時の位置に合わす。
③TIMERキーを押す。

例)現在時刻……PM4：20
タイマーON　(入)時刻……AM7：15
タイマーOFF(切)時刻……AM8：00

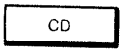
タイマー演奏/録音をする

●サウンドソースの準備

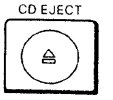
めざましとして使う

CDを聞く

1 “CD” を押す



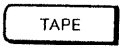
2 ディスクを入れる



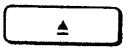
3 ノーマルプレイまたはプログラムプレイで演奏状態にして止める

テープを聞く

1 “TAPE” を押す。



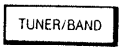
2 デッキ2にカセットを入れる



3 聞きたい曲の頭出しをしてテープを止める

テレビ・ラジオ放送を聞く

1 放送の種類（AM、FM、TV）を選ぶ



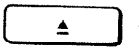
2 希望の局をメモリーした数字ボタンで選ぶ

タイマー録音

テレビ・ラジオ放送を録音する

1 上記「テレビ・ラジオを聞く」の1~2の操作をする

2 デッキ2にカセットを入れる



VOLUME(ボリューム)つまみを下図の位置にセットした場合の動作

■TIMER(タイマー)キーを押すと

- VOLUME(ボリューム)つまみが自動的に回転（セット位置→0→セット位置）し、セット位置を記憶して電源が切れます。
- つまみが回転中にPOWER(パワー)スイッチを押したり、再度TIMER(タイマー)キーを押したりしないでください。VOLUME(ボリューム)つまみのセット位置の記憶や、元のVOLUME(ボリューム)つまみの位置へ戻す動作が正しく行なわれなくなります。

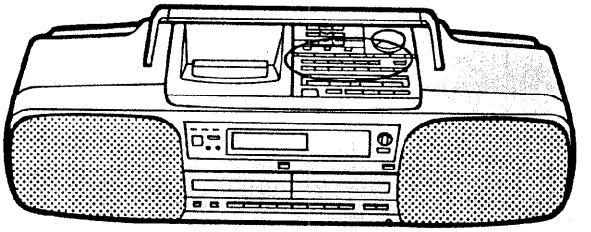
■タイマー録音終了後は、誤って録音されることを防ぐため、TIMER(タイマー)-REC(レック)スイッチを “OFF” にし、テープを取り出しておきます。
■タイマーセット終了後、引続き動作させたいときには、SLEEP(スリープ)キーを押してスリープ状態でお楽しみください。(☞48ページ)

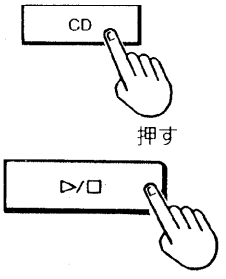
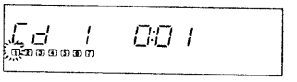
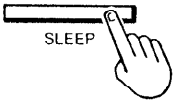
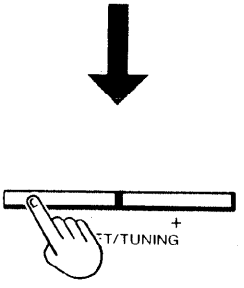
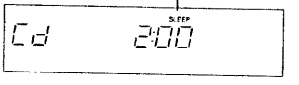
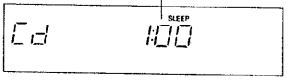
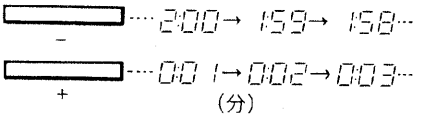
ご注意

- CDの演奏曲を予約した後はディスクホルダを開けないで下さい。（予約が解除され、演奏はCDの1曲目からになります。）
- タイマーセット状態（TIMER(タイマー)インジケータ表示）では、POWER(パワー)スイッチは働きません。電源を入れるときは、TIMER(タイマー)キーを押し、タイマーセット状態を解除した後に行なってください。
- タイマー動作を途中で止めるときは、POWER(パワー)スイッチで電源を切り、TIMER(タイマー)キーを押してタイマーの解除を行なってください。

おやすみになりながら聞く(スリープ操作)

最高2時間まで、1分単位で好みの演奏時間をセットすることができます。
(セットした時間が経過すると自動的に電源が切れますので、おやすみになるときにご使用になると便利です。)



操　　作	ディスプレイの表示
1  **演奏したい音(ソース)を選びます。** (例：CDを演奏状態にします。)	
2  **スリープ SLEEPキーを押し、ディスプレイにスリープ時間が表示されている間(約5秒間)に、時刻調整キーを押します。** (希望の時間が表示されたら指を離します。) 	スリープインジケータ  スリープ時間(約5秒間表示します。)  

● セットした時間が経過すると、電源が切れます。

■毎日スリープ機能を使うときは
一度セットしたスリープ時間は時間設定を変えるまで記憶していますので、次からはSLEEP(スリープ)Pキーを押すだけでセットできます。

● 一度セットしたスリープ時間を変えるには
①POWER(パワー)Rキーを押して一度電源を切り、再び電源を入れます。
②上記手順2をします。

■途中でスリープ操作を止めるときは
POWER(パワー)Rスイッチを押します。

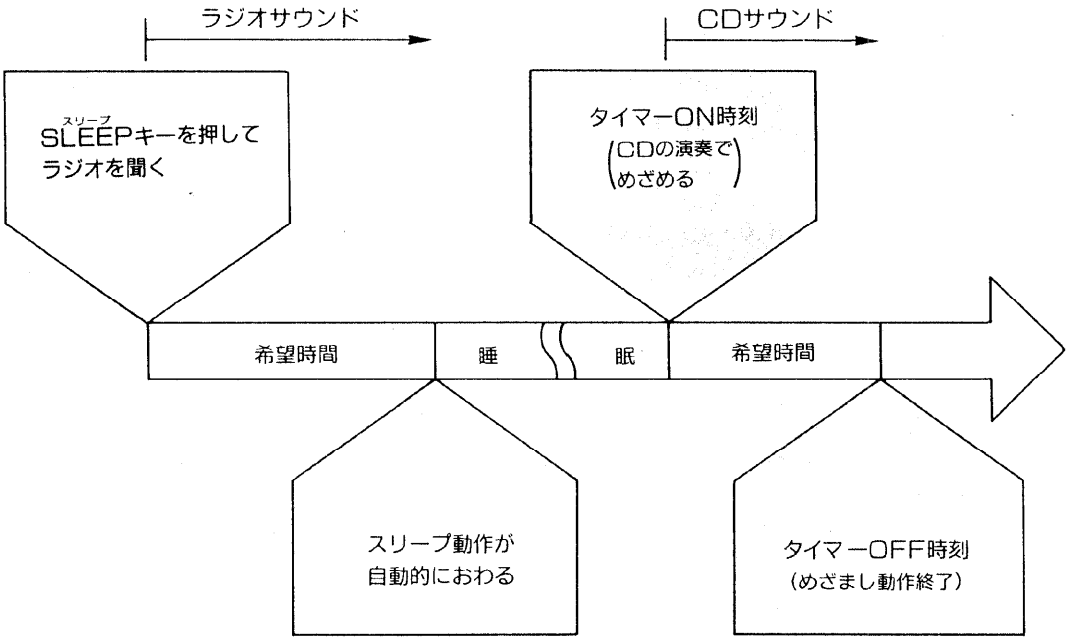
■動作中、残りのスリープ時間を確認するには
SLEEP(スリープ)Pキーを押します。

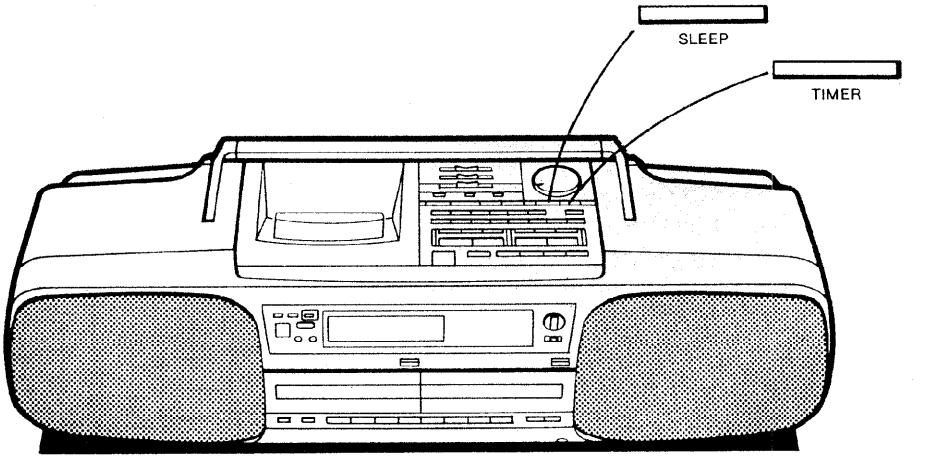
■スリープ動作中に残りの時間を変えるには
①SLEEP(スリープ)Pキーを押して残り時間を確認します。
②スリープ時間表示中に時刻/スリープ時間調整キーで変更します。
このとき、変更したスリープ時間は記憶されません。再びスリープ操作をしたときは変更前の時間が設定されています。

“スリープ”と“めざまし”で好みのサウンドソースを使う

タイマー機能と、スリープ機能を使うと、たとえばラジオサウンドを聞きながらおやすみになり、翌朝CDサウンドをめざまし時計がわりに使うことができます。

操作のしかたは：☞50ページ





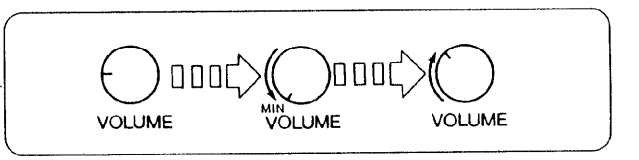
■“スリープ”と“めざまし”とで異なったバンド／放送局の、ラジオ／TVを聞くこともできます。

(例)**“スリープ”**…TV放送の6チャンネル

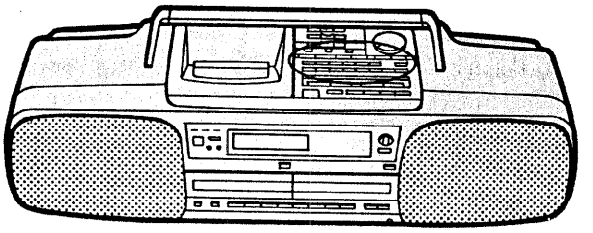
“めざまし”…FM放送の85.1MHz

●動作切換キーのAUX(オークス) IN(イン)(オーディオ入力)を選んだとき、本機のタイマーで外部機器の電源を入/切することはできません。

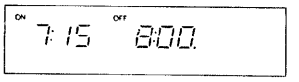
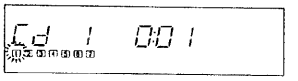
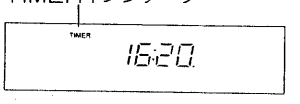
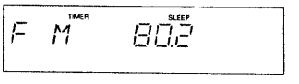
●スリープ時にVOLUME(ボリューム)つまみを動かしても、タイマー演奏時には、タイマーセット時の位置に戻ります。



“スリープ”と“めざまし”で好みのサウンドソースを使う



〔例〕おやすみになりながらラジオ/TVサウンドを聞き、翌朝CDサウンドでめざめる

操　　作	ディスプレイの表示
1 TIMER CHECK / TIME ADJUST / TIME SET/TUNING（−／＋） **タイマーON(入)、OFF(切)時刻をセットします。** (目覚し用の演奏の開始/終了時刻をセットします。)	
2 CD / ▷/□ **CDを演奏状態にします。** ●めざまし時にお好みの音量になるように、VOLUME つまみの位置をセットします。 ●お好みの曲を予約しておくこともできます。	
3 TIMER（押す） **TIMERキーを押します。** (音量の位置を記憶して翌朝のタイマー演奏がセットされ、電源が切れます。) 表示は現在時刻表示に戻ります。	TIMERインジケータ  表示は現在時刻表示に戻ります。
4 SLEEP（押す） **SLEEPキーを押します。** (再び電源が入り、スリープ時間を表示します。) ディスプレイはスリープ時間を5秒間表示します。	SLEEPインジケータ
5 TUNER/BAND（押す） **ラジオ/TVサウンド受信状態にします。** ●“スリープ”動作時は小さめの音量でお聞きになっても、“めざまし”時には、あらかじめセットした音量で動作します。	

■タイマー演奏時とスリープ時で両方CDを聞くときは

タイマー演奏とスリープ動作で別々のCDや、異なった予約曲の設定はできません。

タイマー演奏時に予約曲をセットしたときは、スリープ時もその予約曲の演奏になります。

(ダイレクトプレイはできません。)

(予約後はディスクホルダを開けないでください。予約が解除されます。)

また、タイマー演奏時に予約曲をセットせず、スリープ時に予約曲をセットしたときは、タイマー演奏時も、そのときセットした予約曲の演奏になります。

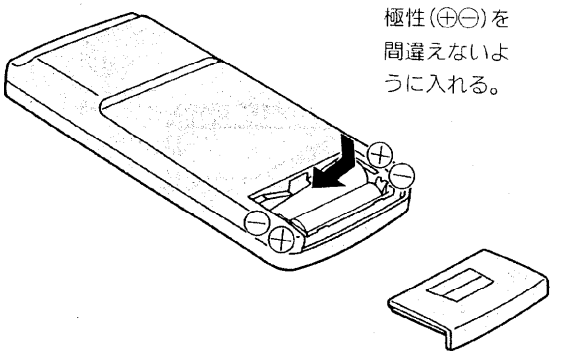
リモコンで操作する

リモコン用乾電池の入れかた

1 乾電池ケースふたを開けます。

2 付属の乾電池を入れます。

使用乾電池：単四形乾電池
（R03(UM-4)）2個



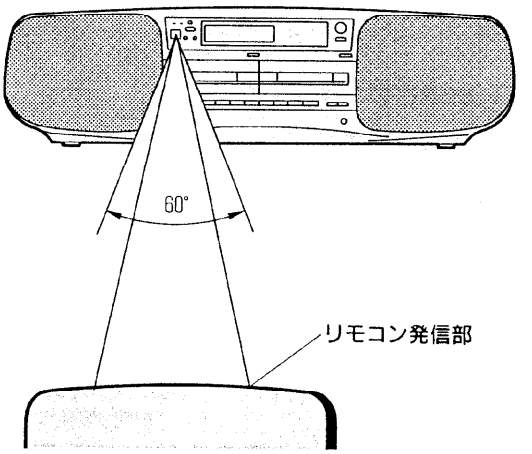
極性(⊕⊖)を間違えないように入れる。

■取出しかた

⊖側に押付けながら取出します。

リモコンの使いかた

受信角度は約60度、本体正面より7メートル以内でご使用ください。



操作のしかた

リモコンでは次の操作ができます。
動作は本体の操作と同じです。

■POWER（電源）
- 家庭用電源（AC）でお使いのとき：「入」「切」
- 乾電池でご使用のとき：「切」

■CD：CDへの切換え、ノーマルプレイ、ダイレクトプレイ、プログラムプレイ、ランダムプレイ、リピートプレイ、スキッププレイ、サーチプレイ、予約の取消し、一時停止、停止

■TUNER/BAND：チューナへの切換え、バンドの切換え、プリセット選局

■TAPE：テープへの切換え、デッキ1、2の切換え、再生、早巻き、TPS、録音ポーズ、録音、停止

■その他

スリープの入/切、タイマー時刻の確認、ディスプレイの切換え、S-XBSスイッチの入/切

■VOLUME（音量調整）：＋…音量が大きくなる。
－…音量が小さくなる。

ご注意

- リモコンセンサが見える正面の位置で操作してください。
- 他の機器のリモコンと同時に使用しないでください。
- AM放送受信時、本体に近づけて発信するとノイズがでることがあります。そのときは、ノイズのでない距離まで離してお使いください。

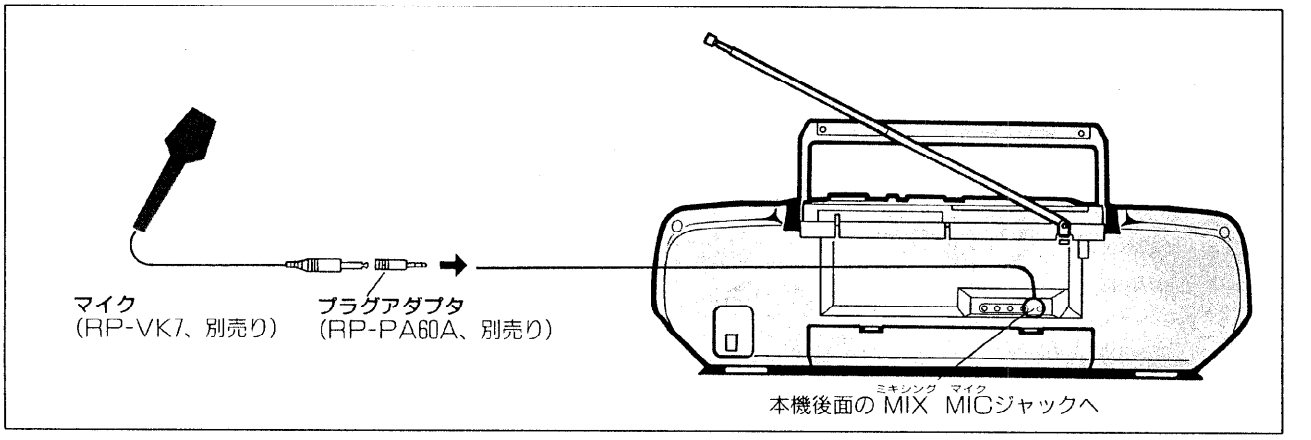
マイクミキシング

ミキシング再生をする

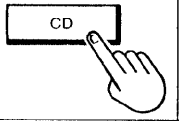
マイクを使ってテープやCD、ラジオ・TVサウンドとの簡単なカラオケを楽しむことができます。

■マイクロホンの接続

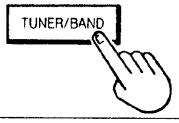
外部マイク（RP-VK7、別売り）と、プラグアダプタ（RP-PA60A、別売り）を使って、下図のように接続します。



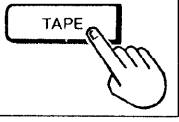
■CDとのミキシング再生は

動作切換キーの位置	操　　作
	CDを演奏状態にする。

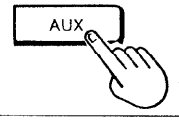
■ラジオ・TVとのミキシング再生は

動作切換キーの位置	操　　作
	ラジオ・TVを受信状態にする。

■テープとのミキシング再生は

動作切換キーの位置	操　　作
	テープを再生状態にする。

■外部機器とのミキシング再生は

動作切換キーの位置	操　　作
	外部機器を動作状態にする。

ご注意

- ミキシングをしないときは、マイクをMIX（ミキシング） MIC（マイク）ジャックから抜いておいてください。
- ミキシングをしているとき、ハウリング（ピーという音）が起こることがあります。そのときはマイクをできるだけスピーカから離すか、音量を小さくしてください。
- CDの演奏音とミキシングしているときは、CD演奏中のみマイク音声がでます。
  停止または一時停止中ではマイク音声はでません。

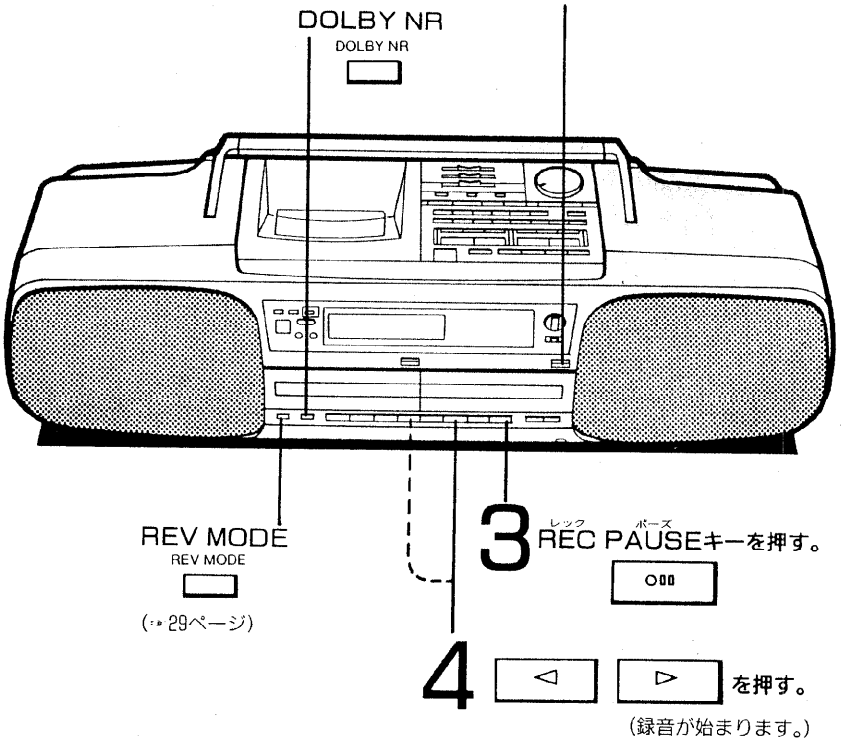
ミキシング録音をする

マイクミキシング機能を使って、CDやラジオ、テープ、TVサウンド、外部機器との混合音を録音することができます。

- テープとのミキシング録音時は、REC MODE切換えスイッチの位置にかかわらず、常に自動録音になります。
- テープとのミキシング録音は「テープ編集する」(☞42ページ)のNORMALスピードでご使用ください。

1 マイクを接続し、ミキシング再生(☞52ページ)の操作をする。

2 EJECTボタンを押して録音用テープを入れる。



外部マイクで録音する

1 動作切換キーはAUXを押す。
(このとき、裏面のAUX INジャックには、何も接続しないでおきます。)

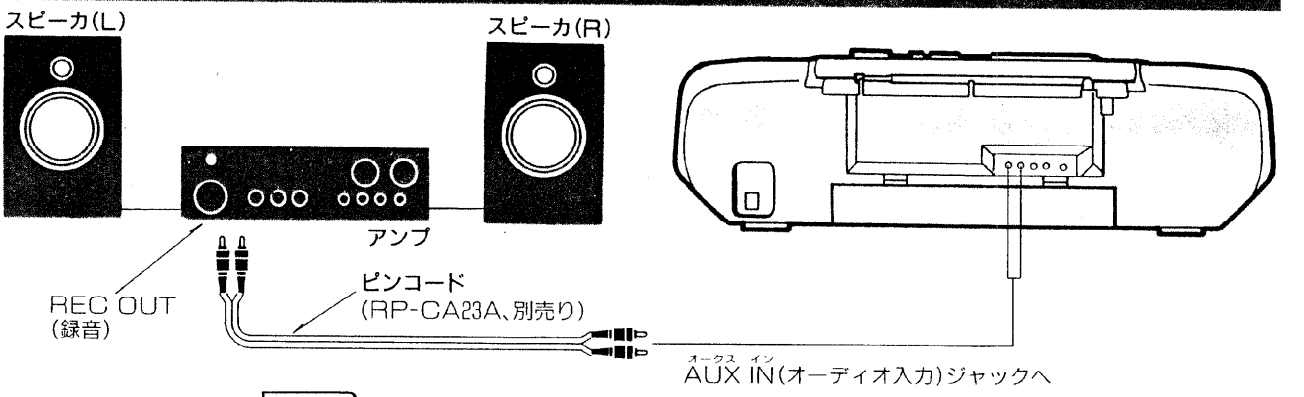
2 上記「ミキシング録音をする」の手順2〜4をする。

■テープとのミキシング録音は
1. デッキ1に演奏用テープを、デッキ2に録音用テープを入れます。
2. テープ編集用のONE TOUCH EDITキーのNORMAL(通常速度)を押します。
(☞「テープ編集する」38ページ)

外部機器との接続

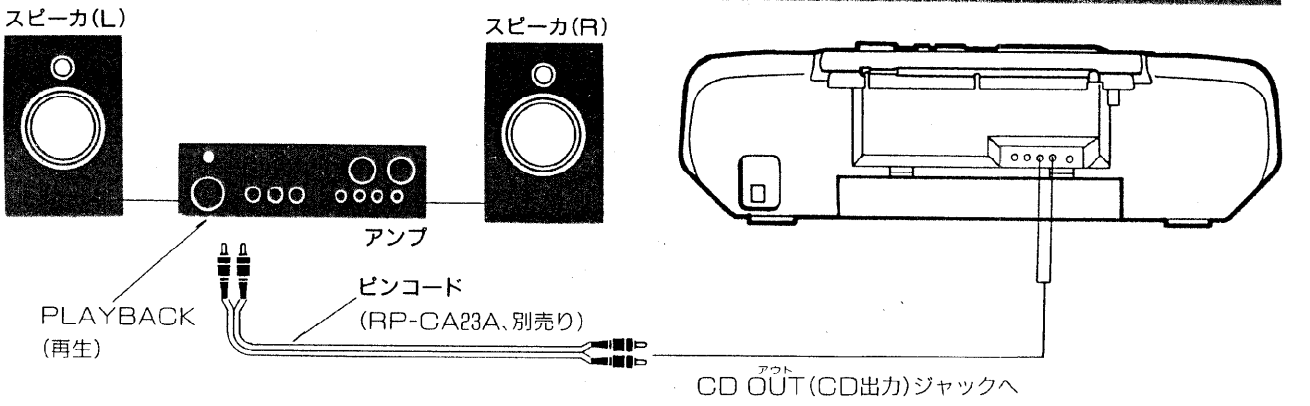
接続する前に、各機器の電源は必ず切っておいてください。

ステレオセットの音を聞く/録音する



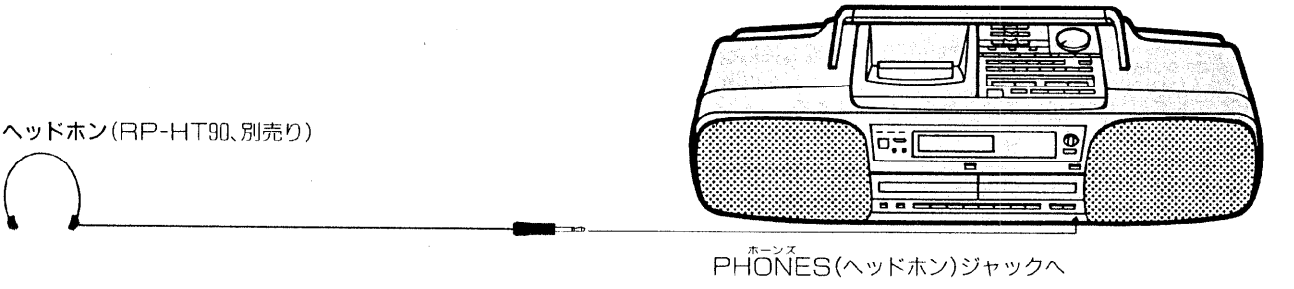
●動作切換キー…… AUX

CDの音をステレオセットを使って聞く



●動作切換キー…… CD

ヘッドホンで聞く



●ヘッドホンでお聞きになるときは、耳を刺激するような大きな音量で、長時間お聞きになることは避けてください。
●別売り品をお求めのときは販売店にお確かめください。

〈その他の別売りアクセサリ〉
- マイクロホン…… (RP-VK7)
- プラグアダプタ …… (RP-PA60A)
- コンパクトディスククリーナ…… (RP-CL300)
- コンパクトディスククリーナ…… (RP-CL200)
- ヘッドクリーニングキット…… (RP-919)

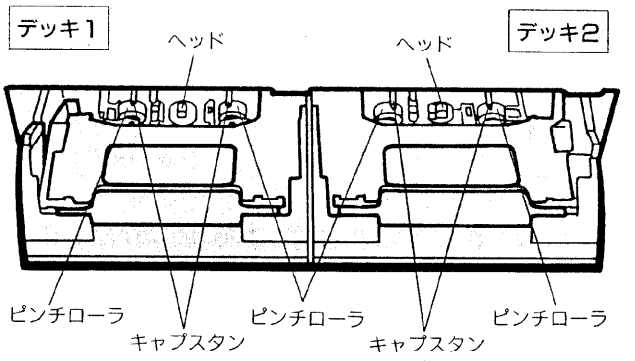
お手入れ

ヘッド部のクリーニング
(約10時間使用ごと)

録音・再生ヘッドやピンチローラは、性能を維持するためにいつもきれいにするように心がけてください。

1 ⏏ ボタンを押して、カセットふたを開けます。

2 綿棒かヘッドクリーニングキット(RP-919.別売り)でクリーニングをしてください。



キャビネットのクリーニング

乾いた布でふいてください。汚れがひどいときは水で布をしめらすか、石けん水を少し布につけ、よくしぼってふき、あとはからぶきしてください。

- 本機には絶対に注油しないでください。注油しますと故障の原因になることがあります。
- ヘッドにドライバなどの鉄類や磁気を帯びたものを近づけないでください。性能が悪くなります。
- ピンチローラやキャプスタンをふくときは、綿棒などを巻込まないようにご注意ください。
- ベンジンやアルコール、シンナーなどの溶剤でふいたり、殺虫剤をかけたりしないでください。
- 化学ぞうきんでこすったり、長時間接触させたままにしておきますと、変質する場合がありますので、使用しないでください。

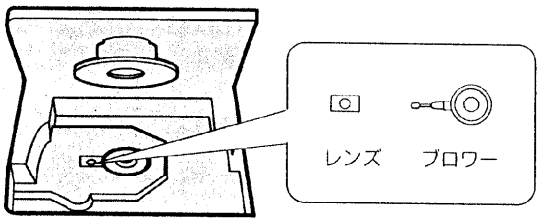
CD部のクリーニング

●レンズの汚れ

音とびなど演奏ができなくなる原因になります。レンズのほこりなどは、下図のようにクリーニングしてください。

●万一指紋などがついた場合、綿棒で軽くふいてください。

※別売りレンズクリーナキット(ブロワー、綿棒、クリーナ液のセット)をおすすめします。(品番:SZZP1038C)



コンパクトディスクについて

コンパクトディスクの演奏面の汚れ、ごみ、傷、そりなどが雑音や動作不良の原因になることがあります。
次のことにご注意ください。

コンパクトディスクは

COMPACT disc DIGITAL AUDIO のマークが入ったものをご使用ください。

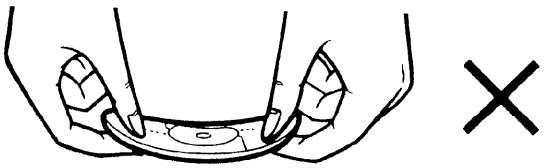
取扱上のご注意

● ケースからの出し入れは

センターホルダを押さえ　　ラベル面を上にして…

演奏面に触れないように持って出す。上から押さえて入れる。

- 演奏面（虹色に光っている面）に触れないように持つ。
- ラベル面に紙を貼ったり字を書いたりしない。
- ディスクは曲げない。

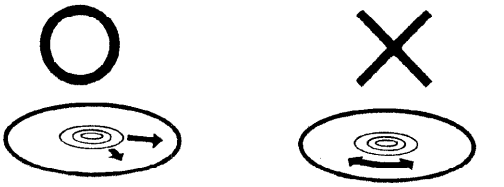


保管上のご注意

- **必ず専用ケースに入れて保管してください。**
- **直射日光の当る所、暖房器具の近くなど温度が高くなる所には置かないでください。**

ディスクのお手入れ

演奏する前に、演奏面についたほこりやゴミ、指紋などを柔らかい布でふきとってください。
ディスクは必ず矢印方向にふいてください。



必ず内側から外側へ

- **シンナーやベンジン、アナログレコード用のクリーナーやスプレー静電防止剤は絶対に使用しないでください。**

露(つゆ)付き現象について

寒い冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴が付きますが、この現象を露付きといいます。
本機はレンズを内蔵していますから、次のような場合にレンズに露付きが起こることがあります。

- **暖房をはじめた直後の部屋**
- **湯気が立ちこめるなど、湿気の多い部屋**
- **冷たいところから、急に温かいところに持ち込んだとき**

このような場合、曲目の読取りができず、プレーヤが正しく動作しないことがあります。
電源を入れ、約1時間待ってからご使用ください。

テープについて

操作上のご注意

●ディスクホルダは必ず閉じておいてください。
ディスクホルダの奥に精密レンズが内蔵されています。特にこの部分にほこりが付かないように、ディスクホルダは必ず閉じておいてください。(内部に手を入れないでください。)

●操作中に本機に衝撃を与えますと、音とびが起こりますのでご注意ください。

●外部振動の影響を受けないしっかりした水平な場所に設置してください。

●持ち運び、保管の際は、強いショックを与えないように、ていねいに取扱ってください。
保管するとき、再輸送のときは、必ずディスクを取出しておいてください。

●本機の天面と後面は放熱のため熱くなりますが、異常ではありません。

●通風孔はふさがないでください。

●本機の上には重いものを置かないでください。

●音量は、必ず絞っておいてください。
コンパクトディスクは、アナログレコードに比べ非常にノイズが少なく、ダイナミックレンジも広くなっています。
従来のようにノイズを聞きながら音量を調整しようとすると、思わぬ大音量になることがあります。

●本機のディスプレイパネルに表示される時間と、コンパクトディスクに付属の解説書(ライナーノート)(Liner Note)に記載された時間とは数秒の差が出る場合があります。
解説書には、ディスクに記録された演奏時間のみが表示されていますが、本機は曲間を含めた全時間を表示するようになっていますので、曲間の時間差が生じます。

●C-120テープはできるだけ使わないで!
C-120テープは伸びたり、機械に巻込まれたりしやすいので、長時間の録音時以外は、できるだけ使用しないでください。

録音を消すには

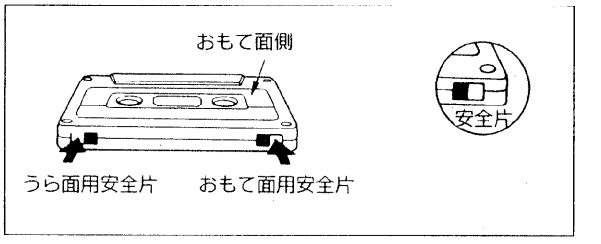
新しく録音すると前の録音は自動的に消去されます。
前の録音のみを消したいときは以下の手順を行なってください。

1 TAPE(テープ)/TUNER(チューナ)/CD/AUX(オークス)(動作切換)キーの「TAPE(テープ)」を押します。

2 **録音**(☞41ページ)**の手順4~5をします。**

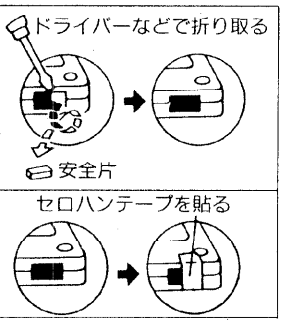
誤って消さないために

カセットテープには、おもて面(A面)用とうら面(B面)用に「安全片」が各1個ついています。



■誤消去を防ぐには
ドライバーなどで安全片を折り取る。

■再び録音するには
セロハンテープを貼って穴をふさぐ。



電源の注意

家庭用電源で使用するとき

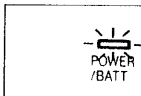
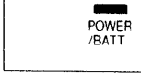
- **長期間使用しないときは、POWER(パワー)スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。**
  [POWER(パワー)スイッチで電源を切っただけでは、約3.9Wの電力を消費しております。]
- この場合プログラムメモリーが消えます。
  再び使用するときは、もう一度プログラムをメモリーしてください。
  時計/マイコン用乾電池（別売り単三形4個）を入れておくとプログラムメモリーが保持できます。
- 乾電池電源に切換えるときは、必ず電源コードの本機側のプラグをはずしてください。
- **使用後は、必ずPOWER(パワー)スイッチを切ってください。**

乾電池で使用するとき

■乾電池の取替時期

乾電池の消耗度は、POWER(パワー)/BATT(バッテリ)インジケータの点灯状態でわかります。ご希望の操作状態にして確認してください。大切な録音をするときには、全部新しい乾電池に交換することをおすすめします。

- 長時間続けて使用するより、1～2時間使用したのち、電源を切って、しばらく間をおきますと乾電池の寿命を延ばすことができます。

	**明るく点灯している** 乾電池は正常ですからそのまま使えます。
	**消えている（点灯しているが暗い）** 乾電池は消耗していますから全部新しい乾電池と交換してください。

■乾電池使用上のご注意

- 長時間使用しないときや、いつも家庭用電源で使用するときは、乾電池の漏液による損傷を防ぐため、乾電池を取出しておいてください。

乾電池は使いかたを誤ると破裂や破損、液もれのおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

- 新しい乾電池と使用した乾電池は混用しないでください。
- 乾電池は充電式ではありません。
- ⊕プラスと⊖マイナスは正しく入れてください。
- 同じ種類の乾電池を使用してください。
- 火の中への投入や、ショート（短絡）、分解、加熱などしないでください。
- 使用しないときは電源を確実に切ってください。

時計/マイコン用乾電池

- 時計/マイコン用乾電池の取替え時期は、別売り単三形乾電池（パナソニックネオブラックR6P）使用の場合は約1年間です。
- 時計/マイコン用乾電池を取替えるときは、プログラム保持のため、必ず電源コードを接続しておいてください。

リモコン用乾電池

- リモコン用乾電池の取替え時期は、リモコンの使用回数で異なりますが、付属の単四形乾電池（パナソニックネオブラックR03）使用の場合は約1年間です。

  [1年経過していない場合でも、リモコンを本機の近くで操作しても動作しないときは、新しい乾電池と取替えてください。
  パナソニックネオブラック乾電池（R03）をおすすめします。]

著作権について

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- 放送やレコード、その他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく著作権法により保護されています。
  従って、それらから録音したテープを、売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。
- 使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請その他の手続きについては、「日本音楽著作権協会」（JASRAC）の本部または最寄の支部におたずねください。

日本音楽著作権協会

本　　部	TEL 03 (502) 6551
北海道支部	TEL 011 (221) 5088
東北支部	TEL 022 (264) 2266
大宮支部	TEL 048 (643) 5461
東京支部	TEL 03 (562) 4455
西東京支部	TEL 03 (232) 8301
横浜支部	TEL 045 (662) 6551
静岡支部	TEL 0542 (54) 2021
中部支部	TEL 052 (586) 1155
北陸支部	TEL 0762 (21) 3602
京都支部	TEL 075 (251) 0134
大阪支部	TEL 06 (244) 0351
中国支部	TEL 082 (249) 6362
四国支部	TEL 0878 (21) 9191
九州支部	TEL 092 (441) 2285
那覇出張所	TEL 0988 (63) 1228

安全使用のために

家庭用電源で使うときは、必ずAC（交流）100Vでお使いください。

AC100V

電源プラグの抜差しは

- 必ず電源プラグを持って行なってください。
- また、ぬれた手で抜差ししますと、感電するおそれがあり、非常に危険です。

電源コードにも注意

（火災や感電事故防止のために）

- 電源コードの傷、断線、プラグの接触不良にお気付きのときは、使用を中止し早めにお求めの販売店にご相談ください。
- 無理に折曲げたり、引張ったり、ねじったり、継ぎたすなどの加工は絶対にしないでください。

本機内部には絶対に触れないでください。

- 改造したり、不用意に内部を触ると、感電や故障の原因になります。
- 内部に金属類（針、ヘアピンなど）を差込むと感電や故障の原因になります。

風呂場など湿気の多い所やほこりの多い所では使用しないでください。

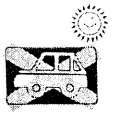
本機に水がかかったとき

ただちに使用を中止して、お求めの販売店にご相談ください。
そのまま使用すると火災や感電のおそれがあり、大変危険です。

高温になる所に放置しないでください。

夏季の閉めきった自動車内（100℃にも達することがある）や長時間直射日光の当たる所、暖房器などの近くで使用したり、放置しないでください。

60℃以上の高温になると、キャビネットが変形・変色したり、故障することがあります。



落雷にご注意

野原などで落雷の危険性があるときは、アンテナをたたんで使用を中止してください。

アフターサービス

保証書（別に添付してあります）

保証書は必ず「販売店名・購入日」等の記入を確かめて販売店から受取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間―ご購入日から１年間

修理を依頼されるとき

“故障!?と思うまえに”の項に従って調べていただき、直らないときには、次の処置をしてください。

●保証期間中は

おそれいりますが、製品に保証書を添えて、お求めの販売店までご持参ください。保証書の規定に従って販売店で修理させていただきます。

●保証期間が過ぎているときは

お求めの販売店に、まずご相談ください。
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品（機能維持のために必要な部品）の最低保有期間は、製造打切後6年です。
この期間は通商産業省の指導によるものです。

アフターサービス等について、おわかりにならないときは

お求めの販売店または最寄りの「ご相談窓口」（別紙ご参照）にお問合わせください。

故障!?と思うまえに

修理を依頼する前にもう一度次の表でご確認ください。それでもなお異常のときは「アフターサービス」(☞60ページ)の内容にしたがって、お求めの販売店にご相談ください。

こんなときは		ここをご確認ください。
CD関係	ディスクをセットしてもマルチディスプレイに総曲数などの表示が出ない。	●乾電池が消耗していませんか? ●ディスクを表裏逆に入れていませんか? ●ディスクが汚れていませんか? ●ディスクに傷や反りがありませんか? ●規格外のディスクをセットしていませんか? ●ディスクに露がついていませんか?
	特定の箇所が正常に演奏できない。	●ディスクが汚れていませんか? ●ディスクに傷はありませんか?
テープ関係	早送り/巻き戻しが遅い。 (回転ムラが出る)	●乾電池が消耗していませんか? ●カセットテープの回転が重くありませんか? (鉛筆などをテープの回転穴に挿入し、手で回してみて回転の重いテープは使用しない。)
	再生音が小さい/録音、再生音が割れる/高音が出ない。	●乾電池が消耗していませんか? ●ヘッド部が汚れていませんか?
	録音ができない。	●カセットの誤消去防止用のつめが折り取られていませんか? ●動作切換キーは正しく選んでいますか?
	操作ができない	●DECK SELECTORキーは正しく選んでいますか?
その他	CD、ラジオ、テープが動作しない。	●乾電池(単1形)は正しくセットされていますか? ●乾電池が消耗していませんか? ●電源を乾電池に切換えたとき、電源コードが本体側に接続されたままになっていませんか? ●電源コードは正しく接続されていますか? ●TIMERキーが押されていませんか? (ディスプレイにTIMERインジケータが点灯していませんか?)
	リモコン操作ができない。 リモコンで操作しても正常な動作をしない。	●リモコンの乾電池が正しくセットされていますか? ●乾電池が消耗していませんか? ●CDやテープはセットされていますか? ●リモコンと本体の距離が離れすぎていたり、途中に障害物がありませんか? ●リモコンの送信部を本体(リモコンセンサ)の正面に向けていますか? ●リモコンセンサに強い光(高周波点灯の蛍光灯や直射日光など)があたっていませんか?

■他、このようなこともご注意ください。

- 本機を他のラジオやテレビなどの電気機器の近くで使用すると、互いに電波干渉をしあって雑音が出ることがあります。このときはできるだけ離してご使用ください。
- 本機を0℃前後から暖かい場所へ急に移動したとき、正常に動作しないことがあります。
  これは内部に露が発生したためで、約1時間程度で正常に戻ります。

定格

ラジオ部

受信周波数：TV：1～62ch
FM：76.0～90.0MHz
AM：522～1629KHz

コンパクトディスクプレーヤ部

標本化周波数：44.1KHz
復　号　化：16ビット直線
光　　源：半導体レーザ(波長780nm)
オーディオチャンネル数：2チャンネルステレオ
周波数特性：20-20000Hz(+1/−2dB)
ワウ・フラッタ：測定限界以下

テープレコーダ部

トラック方式：ステレオ
録音方式：交流バイアス
消去方法：交流消去
モニタ方式：バリアブルサウンドモニタ
周波数範囲：ノーマルテープ：30～16000Hz(EIAJ)
クロームテープ：30～17000Hz(EIAJ)
メタルテープ：30～18000Hz(EIAJ)

時計/マイコン

電　　源：乾電池：DC6V(単三形乾電池4個)
電池持続時間：約1年間
(別売り乾電池
パナソニックネオブラックR6P使用時)

リモコン

電　　源：乾電池：DC3V(単四形乾電池2個)
電池持続時間：約1年間
(パナソニックネオブラック乾電池R03使用時)
最大外形寸法：70(W)×161(H)×24(D)mm(EIAJ)
重　　量：約124g(乾電池を含む)

共通部

スピーカ：ウーファ 12cm丸形 2.7Ω 2個
スコーカ 8cm丸形 6Ω 2個
ツィータ 1cm 2個
入力端子：AUX：200mV(47kΩ)
MIX MIC：2.5mV適合マイクインピーダンス：200～600Ω
出力端子：ヘッドホン：32Ω
CD：0.6V(EIAJ)
実用最大出力：低域用 7.5W+7.5W(EIAJ)
(DC時) 中高域用 4.0W+4.0W(EIAJ)
電池持続時間：〈ラジオカセット部〉
約6時間 (EIAJ録音時)
約4時間 (EIAJ音楽再生時 Vol.8分目程度)
〈CD部〉
約2.5時間(CD連続演奏時)
(別売り乾電池
パナソニックネオブラックR20P使用時)
電　　源：AC：100V、50/60Hz(付属電源コード使用)
乾電池：DC15V(単一形乾電池10個)
消費電力：AC39W
最大外形寸法：720(W)×212(H)×265(D)mm(EIAJ)
重　　量：8.9kg(乾電池なし)
約10.0kg(乾電池を含む)

★この定格は性能向上のため変更することがあります。

POWER(パワー)スイッチ「切」時の消費電力…3.9W(ACのとき)

付属品：電源コード …… 1
リモコン …… 1
乾電池(単四形) …… 2
リモコンホルダ …… 1

便 利 メ モ

（おぼえのために、記入されると便利です。）

ご購入年月日	年　月　日	品番	RX-DT8
ご購入店	電話（　）　—		
最寄りのご相談窓口	電話（　）　—		

松下電器産業株式会社　オーディオ事業部
〒571 大阪府門真市松生町1番4号 ☎(06)909-1021

RQT0327-S
F1289G1010